

第3章 健康

1 健康意識

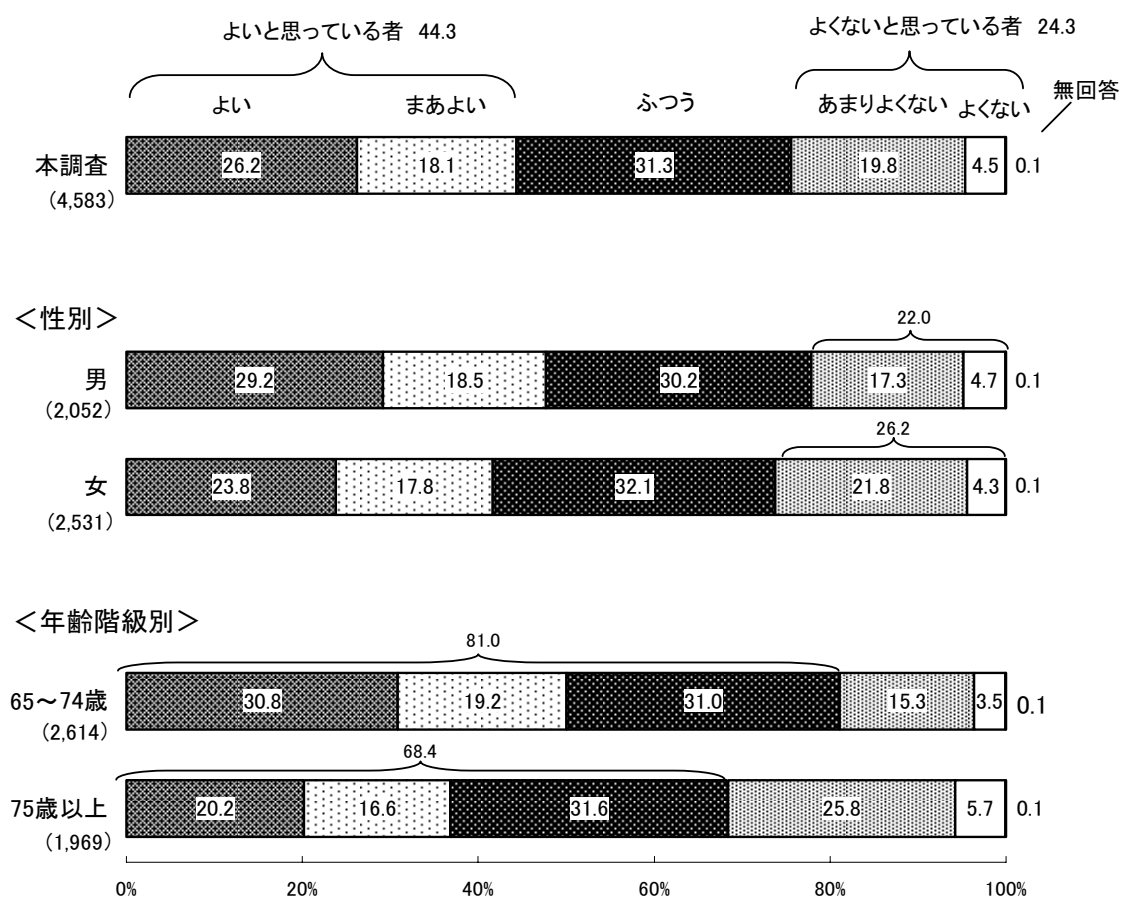
健康状態を「よい」「まあよい」「ふつう」と意識している者は、前期高齢者で 8 割強であり、後期高齢者でも 7 割弱にのぼる。

健康状態を本人に尋ねたところ、「ふつう」が 31.3%と最も多い。「よいと思っている者」（「よい」「まあよい」を合計）は 44.3%、「よくないと思っている者」（「あまりよくない」「よくない」を合計）は 24.3%であった。（図 3-1）

性別でみると、「あまりよくない」「よくない」を合計した割合は、男性 22.0%に対して、女性 26.1%と、女性の方が健康状態に不安を抱えている割合が若干高い。

年齢階級別でみると、「よい」「まあよい」「ふつう」を合計した割合は、前期高齢者（65～74 歳）では 81.0%と 8 割を超え、後期高齢者（75 歳以上）でも 68.4%と 7 割弱にのぼっている。

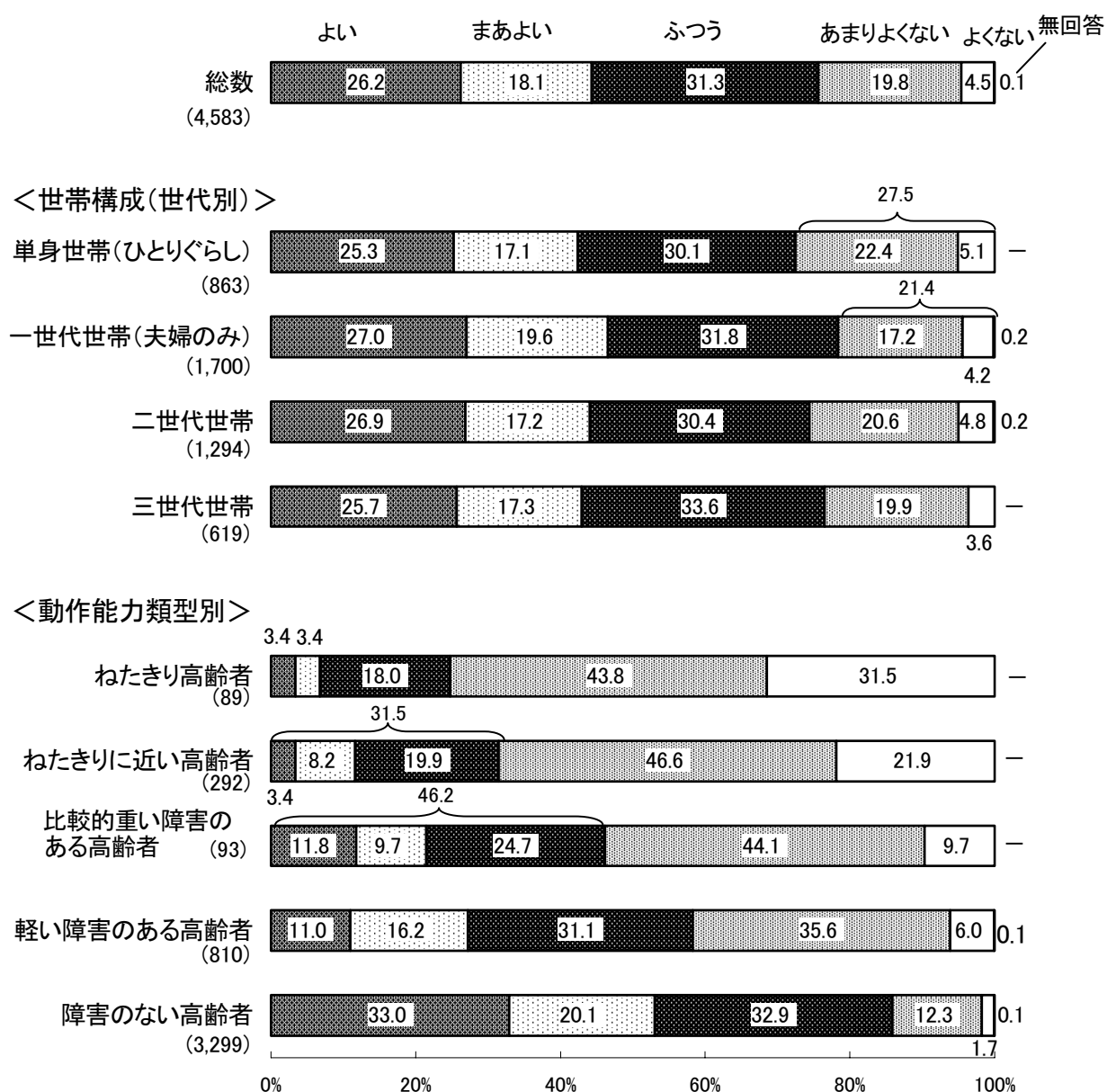
図 3-1 健康意識（本人）－性、年齢階級別



世帯構成（世代別）でみると、「あまりよくない」「よくない」を合計した割合は、「ひとりぐらし」が 27.5%で最も多くなっており、最も少ないのは「一世代世帯（夫婦のみ）」の 21.4%である。（図 3-2）

動作能力類型別でみると、「よい」「まあよい」「ふつう」を合計した割合は、「比較的重い障害のある高齢者」では 46.2%、「ねたきりに近い高齢者」でも 31.5%にのぼっており、身体に障害があっても、必ずしも健康状態を悪いと意識しているわけではないことがわかる。

図 3-2 健康意識（本人）—世帯構成（世代別）、動作能力類型別



2 日常生活動作（ADL）

高齢者の日常生活動作（ADL）を、「聴力」「視力」「意思伝達」「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排泄」の8項目と、行動範囲を中心とした「総合」に分けて尋ねた。

(1) 日常生活動作（ADL）一項目別

日常生活動作（ADL）のうち加齢にともなって低下が著しいのは「聴力」と「歩行」。

8項目の回答状況を、段階A・Bに分けて表示したのが表3-1である。

表3-1 日常生活動作（ADL）

（注）A・B欄は「動作能力類型」（P41 参照）を作成するための分類である。

（単位：％）

	A		B	
聴 力 ※1	1 ふつうに聞こえる	86.8	4 まったく(ほとんど)聞こえない	0.3
	2 大きい声で話せば聞こえる	11.0		
	3 耳元で大きい声で話さないと聞こえない	1.9		
視 力 ※2	1 ふつうに見える(本が読める、テレビを不自由なく見ることができる)	88.9	3 1メートルぐらいの距離に近づかないと誰であるかわからない	1.8
	2 本が読みにくい、テレビの画面がはっきり見えない	8.9	4 まったく(ほとんど)見えない	0.3
意 思 伝 達 ※3	1 自分の意思を相手に伝えることができる	97.0	3 伝えられないことのほうが多い	1.1
	2 伝えられることのほうが多い	1.7	4 伝えることがまったく(ほとんど)できない	0.2
歩 行 ※4	1 ひとりで不自由なく歩ける	84.2	3 手を貸してもらうなど一部介助を必要とする	3.7
	2 時間をかければ介助なしにひとりで歩ける	10.3	4 全面的な介助を必要とする	1.8
食 事	1 ひとりで問題なく食べられる	96.8	3 おかずを刻んでもらうなど一部介助を必要とする	0.7
	2 時間をかければ介助なしにひとりで食べられる	2.0	4 全面的な介助を必要とする	0.4
着替え	1 ひとりで問題なくできる	94.3	3 そでを通してもらうなど一部介助を必要とする	1.6
	2 時間をかければ介助なしにひとりでできる	3.1	4 全面的な介助を必要とする	1.0
入 浴	1 ひとりで問題なくできる	91.9	3 体を洗ってもらうなど一部介助を必要とする	2.2
	2 時間をかければ介助なしにひとりでできる	3.4	4 全面的な介助を必要とする	2.3
排 泄	1 ひとりで問題なくできる	95.0	3 便器に座らせてもらうなど一部介助を必要とする	1.0
	2 時間をかければ介助なしにひとりでできる	3.0	4 全面的な介助を必要とする	0.9

※1 ふだん補聴器を使用している場合は、補聴器を使用した状態で回答している。

※2 ふだん眼鏡を使用している場合は、眼鏡を使用した状態で回答している。

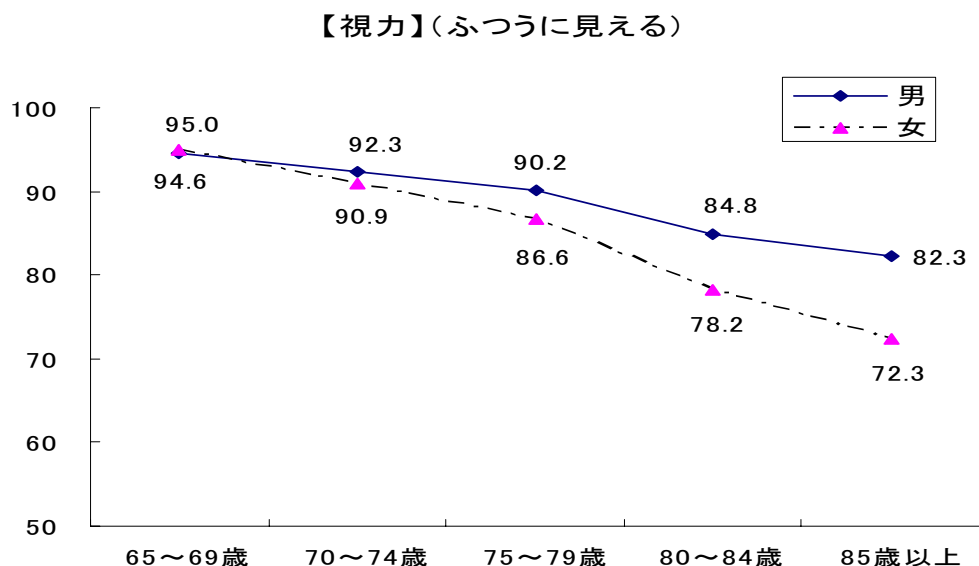
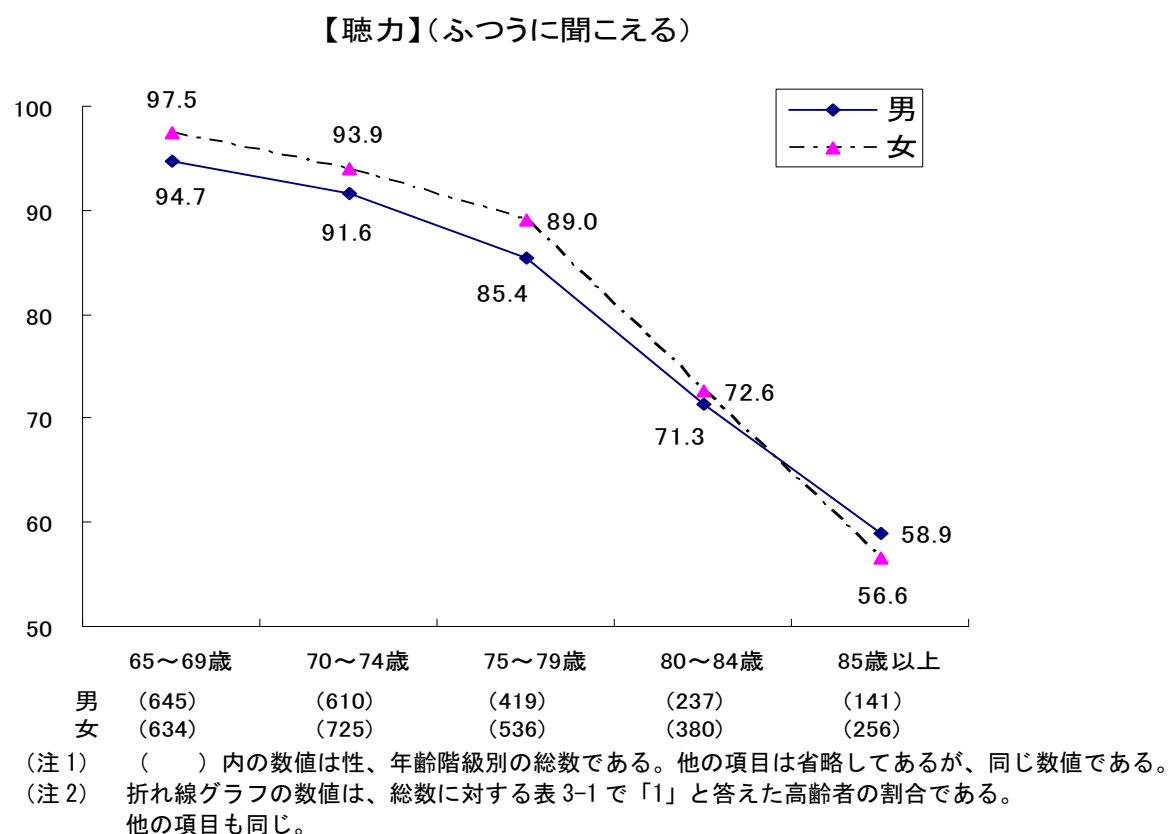
※3 伝達できる相手が誰かは問わない。手段には、手話、筆談、身振りなども含む。

※4 ふだん杖やシルバーカーを使用している場合は、それらを使用した状態で回答している。

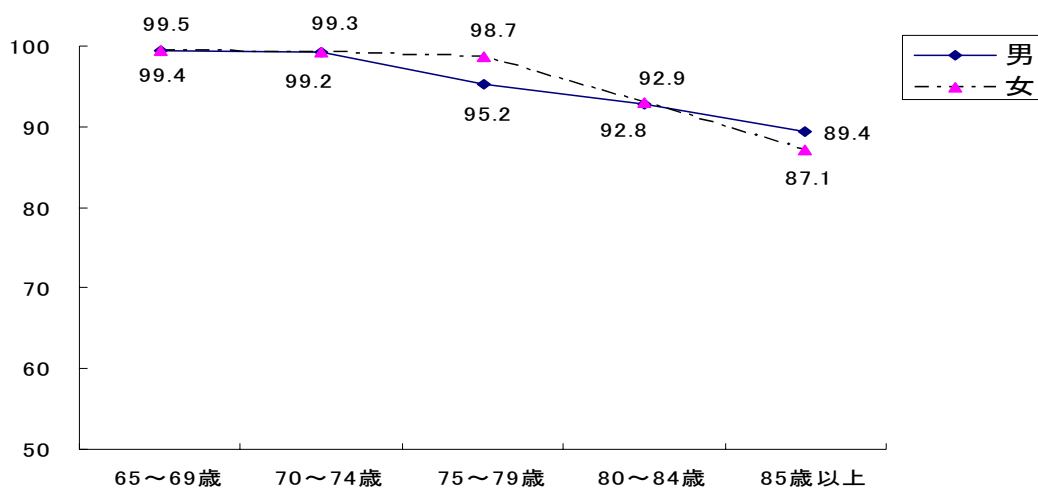
下記の図 3-3 の各図は、表 3-1 の各項目で「1」と答えた、ADL に問題のない高齢者の割合を示したものである。すべての項目で、年齢階級が高くなるとともに ADL の低下がみられるが、特に「聴力」と「歩行」で低下が著しい。

性別でみると、「65～69 歳」では男女に差異はあまりみられないが、「85 歳以上」では、すべての項目において女性が男性より ADL が低下している。特に、「視力」で 10.0 ポイント、「歩行」で 9.6 ポイント、「入浴」で 7.8 ポイント、女性は男性より ADL に問題のある高齢者の割合が高くなっている。

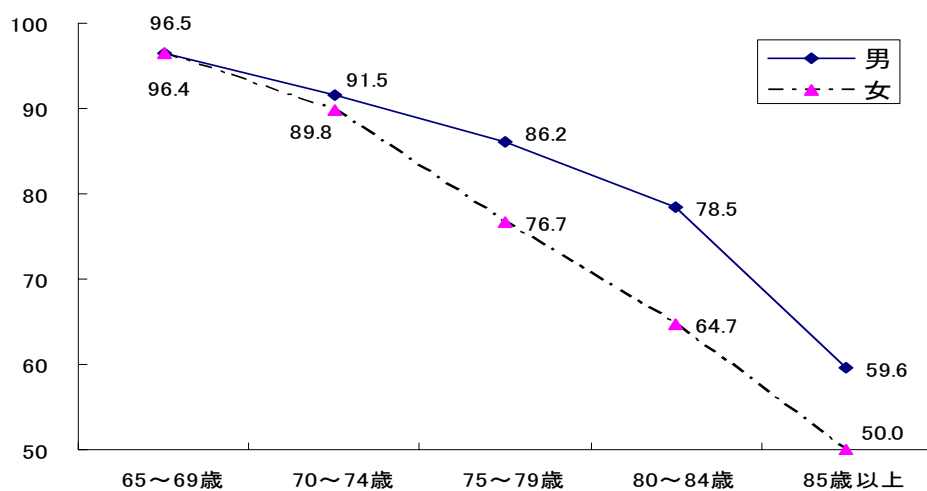
図 3-3 ADL に問題のない高齢者の割合－性、年齢階級別



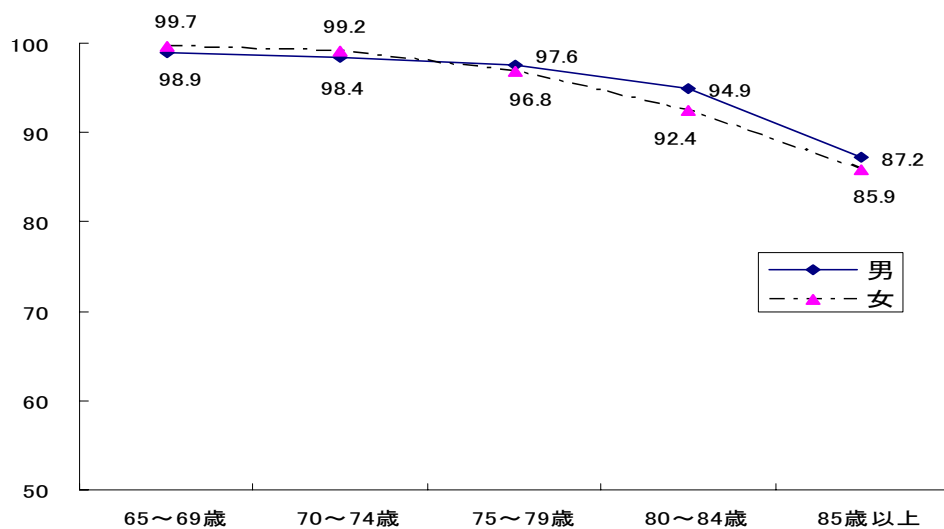
【意思伝達】(自分の意思を相手に伝えることができる)



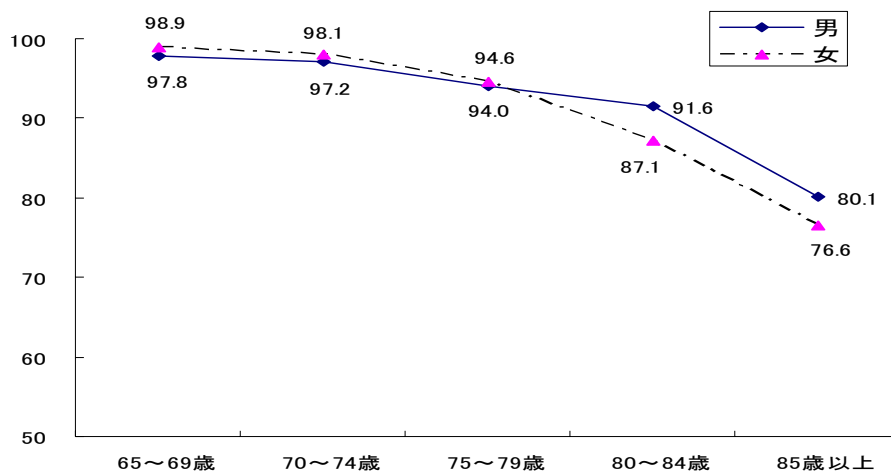
【歩行】(ひとりで不自由なく歩ける)



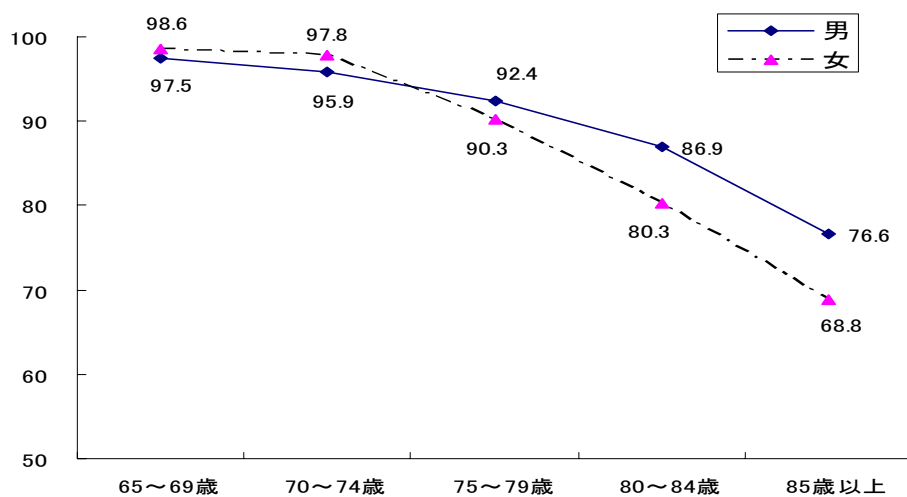
【食事】(ひとりで問題なく食べられる)



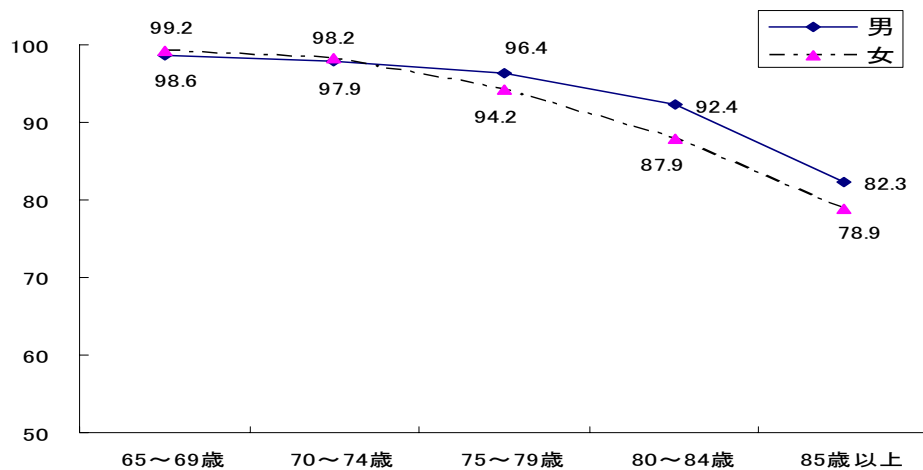
【着替え】(ひとりで問題なくできる)



【入浴】(ひとりで問題なくできる)



【排泄】(ひとりで問題なくできる)



(2) 日常生活動作（ADL）－総合

日常生活動作（ADL）を総合的にみると、9 割強が生活自立の高齢者である。

日常生活動作を総合的にみるため、下記の表 3-2 の段階に分けて尋ねたところ、約 9 割が「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」生活自立した高齢者であった。（図 3-4）

図 3-4 日常生活動作（総合）

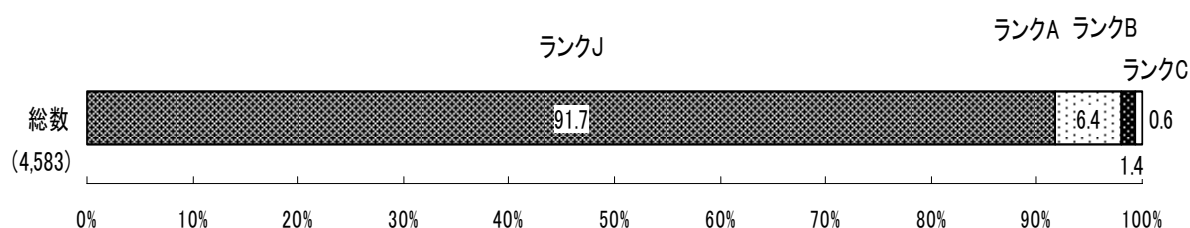


表 3-2 日常生活動作（総合）

ラ ン ク J	生 活 自 立	日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる 1 バス・電車などの公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる 2 となり近所への買い物や老人会などへの参加など、町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる
ラ ン ク A	準 ね た き り	食事、着替え、排せつはだいたい自分でできるが、外出するには介助が必要である 1 介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
ラ ン ク B	ね た き り	食事、着替え、排せつのいずれかにおいて部分的に介助を必要とし、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる 1 自分で車いすなどに座り、食事、排せつはベッドから離れて行う 2 介助により車いすなどに座り、食事、排せつは介助が必要である
ラ ン ク C	き り	1 日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排せつのいずれにおいても全面的な介助が必要である 1 自力で寝返りをうつことができる 2 自力で寝返りをうつことができない

（注）ランクの区分は「障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準」（厚生労働省）による。

「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」割合は、男女ともに年齢階級が上がるにつれて減少しているが、性別でみると、「85 歳以上」では男性 77.3%、女性 66.0%と、女性が男性よりも 11.3 ポイント低くなっている。(表 3-3)

その中で、「バス・電車等の公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる」割合は、「85 歳以上」の男性で 46.8%、女性では 32.0%で、男性が女性よりも 14.8 ポイント高い。一方、「町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる」割合は、「85 歳以上」の男性で 30.5%、女性では 34.0%で、女性が男性よりも 3.5 ポイント高い。

女性は年齢階級が上がるとともに、男性よりも歩行が困難となり、外出範囲も狭くなる傾向がうかがえる。

表 3-3 日常生活動作（総合）一性・年齢階級別

		総数	日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる。	町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる			食事、着替え、排泄は大体自分でできるが、外出するには介助が必要	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている			食事、着替え、排泄のいずれかに介助を必要とし、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子等に座ることができる			自分で車いす等に座り、食事、排泄はベッドから離れて行う	介助により車いす等に座り、食事、排泄は介助が必要	1日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排泄のいずれにおいても全然的な介助が必要	自力で寝返りをうつことができる	自力で寝返りをうつことができない	無回答
				バス・電車等の公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる															
総数		100.0 (4,583)	91.7	81.1	10.6	6.4	3.7	2.7	1.4	0.6	0.7	0.6	0.3	0.3	-				
性・年齢階級別	男	100.0 (2,052)	93.7	86.1	7.6	4.8	2.8	2.0	1.2	0.5	0.7	0.3	0.1	0.2	-				
	65～69歳	100.0 (645)	98.3	95.7	2.6	0.9	0.8	0.2	0.8	0.3	0.5	-	-	-	-				
	70～74歳	100.0 (610)	95.7	92.0	3.8	3.3	1.8	1.5	0.7	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	-				
	75～79歳	100.0 (419)	92.8	84.5	8.4	5.5	2.6	2.9	1.0	0.2	0.7	0.7	0.2	0.5	-				
	80～84歳	100.0 (237)	86.9	71.3	15.6	11.0	5.5	5.5	2.1	1.7	0.4	-	-	-	-				
	85歳以上	100.0 (141)	77.3	46.8	30.5	17.0	12.1	5.0	5.0	1.4	3.5	0.7	-	0.7	-				
	女	100.0 (2,531)	90.1	77.0	13.1	7.6	4.4	3.2	1.5	0.7	0.8	0.8	0.5	0.4	-				
	65～69歳	100.0 (634)	98.1	94.2	3.9	1.4	1.1	0.3	0.5	0.2	0.3	-	-	-	-				
	70～74歳	100.0 (725)	96.1	89.4	6.8	3.4	1.7	1.8	0.3	0.1	0.1	0.1	-	0.1	-				
	75～79歳	100.0 (536)	91.0	75.7	15.3	7.1	3.9	3.2	1.5	0.4	1.1	0.4	0.2	0.2	-				
	80～84歳	100.0 (380)	80.0	56.6	23.4	15.0	10.0	5.0	3.7	2.1	1.6	1.3	0.8	0.5	-				
85歳以上	100.0 (256)	66.0	32.0	34.0	25.0	12.9	12.1	3.9	2.0	2.0	5.1	3.1	2.0	-					

3 動作能力類型

動作能力類型に分けると、障害のない高齢者は7割強、ねたきり等の高齢者は1割弱。

調査対象者の動作能力について、下記の表3-4のとおり類型分けを行った。

その結果が表3-5である。「障害のない高齢者」が72.0%で最も多く、「軽い障害のある高齢者」が17.7%、「比較的重い障害のある高齢者」が2.0%、「ねたきり等の高齢者」は8.3%となっている。

表3-4 動作能力類型

ねたきり等 の高齢者	ねたきり高齢者	「日常生活動作（総合）」（P39、表3-2）のランクB又はC
	ねたきりに近い 高齢者	「日常生活動作（総合）」（P39、表3-2）のランクA
比較的重い障害のある高齢者		「日常生活動作（総合）」（P39、表3-2）のランクJ かつ 「日常生活動作」（P35、表3-1）のB欄に1つでも該当のある者
軽い障害のある高齢者		「日常生活動作（総合）」（P39、表3-2）のランクJ かつ「日 常生活動作」（P35、表3-1）でB欄に該当がなくA欄に1つでも 1以外に該当のある者
障害のない高齢者		「日常生活動作（総合）」（P39、表3-2）のランクJ かつ「日 常生活動作」（P35、表3-1）ですべてが1に該当する者

表3-5 動作能力類型－過去調査（昭和60年～）との比較

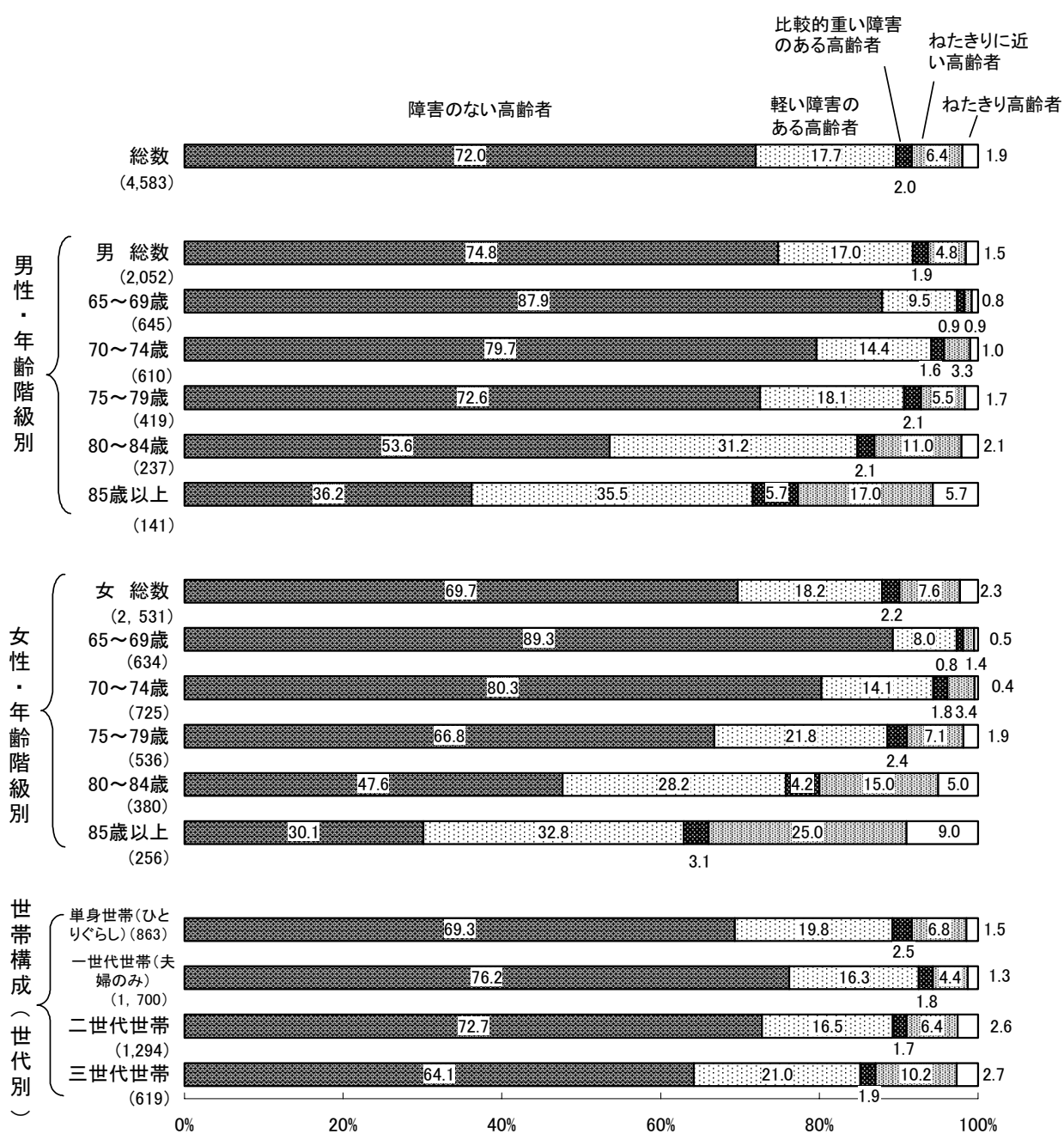
	総 数	ね た き り 等 の 高 齢 者	ね た き り 高 齢 者	ね た き り に 近 い 高 齢 者	比 較 的 重 い 障 害 の あ る 高 齢 者	軽 い 障 害 の あ る 高 齢 者	障 害 の な い 高 齢 者
総数	100.0 (4,583)	8.3	1.9	6.4	2.0	17.7	72.0
《参考》 平成12年調査	100.0 (5,086)	6.2	2.2	4.0	5.5	13.9	74.4
平成7年調査	100.0 (8,686)	3.5	1.7	1.9	3.4	19.0	74.1
平成2年調査	100.0 (8,715)	3.6	1.4	2.2	2.7	18.0	75.7
昭和60年調査	100.0 (8,992)	3.6	1.5	2.1	2.1	22.1	72.2

（注）平成12年調査までと本調査では、「日常生活動作（ADL）」（P35）の選択肢の表現が一部異なっており、厳密に比較を行うことはできないため、参考値である。

性、年齢階級別でみると、「障害のない高齢者」の割合は、「65～69歳」では男女ともに9割弱であるが、年齢階級が上がるとともに減少し、「85歳以上」では男性36.2%、女性30.1%まで減少している。（図3-5）

世帯構成（世代別）でみると、「障害のない高齢者」の割合が最も少ないのは、三世帯世帯の64.1%であり、次いで単身世帯（ひとりぐらし）の69.3%となっている。単身世帯でも、3割は何らかの障害を抱えていることがわかる。

図3-5 動作能力類型一性、年齢階級、世帯構成（世代別）



4 傷病の状況

(1) 総数

現在かかっている傷病は、高血圧症が3割強で最も多い。

現在何らかの傷病にかかっているかを尋ねたところ、「高血圧症」が30.9%で最も多く、次いで「眼疾患」14.4%、「腰痛症」13.5%、「高脂血症」10.6%と続いている。一方、「特になし」は23.4%であった。(表3-6)

全国調査と比べると、「高血圧症」が5.2ポイント(東京都30.9%、全国25.7%)、「高脂血症」が3.4ポイント(東京都10.6%、全国7.2%)、東京都が全国調査よりも高くなっている。

表3-6 傷病の状況(複数回答)ー全国調査との比較

	総数	高血圧症	高脂血症	糖尿病	腰痛症	関節症・リウマチ	肩こり症	骨粗しょう症	脳卒中	狭心症・心筋梗塞等	眼疾患	消化器疾患	泌尿器疾患	呼吸器疾患	耳鼻科疾患	歯科疾患	骨折・外傷	認知症	その他	特になし	無回答
総数	100.0 (4,583)	30.9	10.6	9.6	13.5	9.2	5.3	6.3	5.0	9.1	14.4	9.2	6.2	5.4	5.5	8.0	1.9	1.4	7.9	23.4	0.5
《参考》 全国調査	100.0 (23,828)	25.7	7.2	8.7	12.6	8.6	6.4	4.9	3.9	6.2	12.9	10.1	5.1	6.7	3.2	8.6	2.0	1.3	...	...	...

(注1) 全国調査は、厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成16年)による。この調査では、病院等に通院している者に対して、その通院の原因となる傷病を尋ねているため、参考値である。

(注2) 下記の選択肢には、右に書かれている傷病が含まれる。

選択肢	含まれる傷病
脳卒中	脳出血、脳梗塞、脳卒中、くも膜下出血、その他の脳血管疾患及びその後遺症
狭心症・心筋梗塞等	狭心症、心筋梗塞、不整脈、心筋炎、その他の心臓疾患
消化器疾患	胃炎、十二指腸炎、胃・十二指腸かいよう、肝炎、肝硬変、胆石症、胆のう炎等
泌尿器疾患	腎臓の病気、前立腺肥大症等
呼吸器疾患	肺気腫、肺炎、気管支炎、胸膜疾患、喘息、アレルギー性鼻炎、急性鼻咽頭炎(かぜ)等
その他	悪性新生物(がん)、貧血・血液の病気、痛風、皮膚病(かぶれ、じんま疹、脱毛症等)、肥満症、甲状腺の病気、精神病(躁うつ病、統合失調症(精神分裂病)等)、神経症、自律神経失調症等

性別でみると、女性が男性の割合を大きく上回っている傷病は、「骨粗しょう症」（男性 1.1%、女性 10.6%）、「関節症・リウマチ」（男性 4.6%、女性 13.0%）、「眼疾患」（男性 10.1%、女性 17.8%）、「腰痛症」（男性 10.5%、女性 15.9%）、「高脂血症」（男性 7.7%、女性 13.0%）の順となっている。一方、「泌尿器疾患」（男性 11.1%、女性 2.3%）は、男性が女性の割合を大きく上回っている。（表 3-7）

年齢階級別でみると、年齢階級が上がるとともに割合が増加している傷病が多く、「85 歳以上」では、特に「眼疾患」が 21.2%、「腰痛症」が 17.4%にのぼっている。一方、「高脂血症」だけは、年齢階級が上がるとともに割合が減少している。「特になし」は、「65～69 歳」では 32.1%にのぼるが、「85 歳以上」では 16.1%とほぼ半減している。

動作能力類型別でみると、障害のない高齢者でも、「特になし」は 29.2%にとどまり、「高血圧症」が 29.7%と 3 割近く、「高脂血症」と「腰痛症」も 1 割強にのぼっている。また、ねたきり高齢者は、「認知症」が 22.5%と 2 割を超えている。

表 3-7 傷病の状況（複数回答）－性、年齢階級、動作能力類型別

		総数	高血圧症	高脂血症	糖尿病	腰痛症	関節症・リウマチ	肩こり症	骨粗しょう症	脳卒中	狭心症・心筋梗塞等	眼疾患	消化器疾患	泌尿器疾患	呼吸器疾患	耳鼻科疾患	歯科疾患	骨折・外傷	認知症	その他	特になし	無回答
総数		100.0 (4,583)	30.9	10.6	9.6	13.5	9.2	5.3	6.3	5.0	9.1	14.4	9.2	6.2	5.4	5.5	8.0	1.9	1.4	7.9	23.4	0.5
性別	男	100.0 (2,052)	29.7	<u>7.7</u>	11.5	<u>10.5</u>	<u>4.6</u>	3.2	<u>1.1</u>	6.4	10.1	<u>10.1</u>	9.7	<u>11.1</u>	6.1	5.5	8.4	1.0	1.1	7.6	25.1	0.5
	女	100.0 (2,531)	31.8	<u>13.0</u>	8.1	<u>15.9</u>	<u>13.0</u>	7.0	<u>10.6</u>	3.9	8.3	<u>17.8</u>	8.8	<u>2.3</u>	4.8	5.5	7.7	2.6	1.6	8.1	22.0	0.4
年齢階級別	65～69歳	100.0 (1,279)	27.1	<u>12.3</u>	8.6	<u>9.1</u>	5.6	5.3	3.4	3.0	5.4	<u>9.5</u>	7.9	4.0	3.1	3.4	8.0	1.0	0.3	7.3	<u>32.1</u>	0.6
	70～74歳	100.0 (1,335)	31.9	<u>12.1</u>	12.4	<u>12.4</u>	8.6	5.8	6.0	5.0	7.5	<u>12.9</u>	9.4	6.2	4.9	4.8	9.1	1.5	0.1	8.0	<u>24.0</u>	0.3
	75～79歳	100.0 (955)	33.7	<u>9.8</u>	10.1	<u>16.8</u>	10.7	5.3	7.3	5.8	11.7	<u>16.9</u>	11.2	7.0	7.0	5.4	8.0	2.6	1.3	8.3	<u>18.0</u>	0.5
	80～84歳	100.0 (617)	30.5	<u>8.6</u>	7.6	<u>17.3</u>	13.8	3.7	8.9	7.5	13.0	<u>19.4</u>	7.8	7.9	7.5	8.8	6.5	3.4	2.9	7.1	<u>17.5</u>	0.5
	85歳以上	100.0 (397)	33.0	<u>5.3</u>	5.5	<u>17.4</u>	12.6	5.8	10.8	6.3	14.4	<u>21.2</u>	9.8	9.1	7.3	9.3	7.1	2.0	6.8	9.6	<u>16.1</u>	0.5
動作能力類型別	ねたきり高齢者	100.0 (89)	28.1	3.4	20.2	16.9	15.7	3.4	13.5	28.1	11.2	23.6	5.6	10.1	4.5	6.7	9.0	7.9	<u>22.5</u>	21.3	3.4	-
	ねたきりに近い高齢者	100.0 (292)	33.2	7.5	11.6	21.2	17.1	7.9	14.0	13.4	17.8	25.3	12.0	11.6	13.7	10.3	8.2	4.8	10.3	16.4	5.1	0.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (93)	26.9	10.8	17.2	19.4	14.0	8.6	9.7	10.8	10.8	36.6	14.0	8.6	7.5	12.9	10.8	8.6	3.2	9.7	8.6	1.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (810)	35.4	11.6	13.0	22.5	16.4	8.9	10.6	6.8	12.1	26.2	11.7	8.9	7.4	12.0	11.0	3.2	0.7	9.0	10.4	0.5
	障害のない高齢者	100.0 (3,299)	<u>29.7</u>	<u>10.8</u>	8.1	<u>10.4</u>	6.5	4.2	4.3	3.1	7.5	9.6	8.3	4.9	4.1	3.2	7.2	1.0	0.1	6.5	<u>29.2</u>	0.5

(2) 要介護高齢者

介護が必要となった主な原因は、男性は脳血管疾患が多く、女性は骨折・転倒、関節疾患が多い。

「日常生活動作（総合）」で、ランクA（準ねたきり）、ランクB・C（ねたきり）に該当した高齢者に対し、介護が必要となった主な原因を尋ねたところ、「脳血管疾患」が23.9%で最も多く、次いで「骨折・転倒」20.7%、「高齢による衰弱」18.6%となっている。

（表3-8）

性別でみると、男女のポイント差が大きい傷病は、「脳血管疾患」（男性36.9%、女性17.1%）、「関節疾患」（男性1.5%、女性12.4%）、「骨折・転倒」（男性14.6%、女性23.9%）である。男性は「脳血管疾患」が多く、女性は「骨折・転倒」「関節疾患」といった筋骨格系の原因が多いことがわかる。

年齢階級別でみると、「80～84歳」の年齢階級までは、どの年齢階級でも「脳血管疾患」の割合が最も高いが、「85歳以上」では「高齢による衰弱」の割合が最も高い。また、「骨折・転倒」は、年齢階級が上がるとともに割合が上昇している。

表3-8 介護が必要となった主な原因（複数回答）－性、年齢階級、世帯構成（世代別）

		総数	脳血管疾患	骨折・転倒	認知症	関節疾患	パーキンソン病	心臓病	脊髄損傷	糖尿病	呼吸器疾患	視覚・聴覚障害	がん	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
総数		100.0 (381)	23.9	20.7	8.7	8.7	2.9	8.9	3.9	6.6	6.0	5.8	4.7	18.6	14.7	4.7	3.4
性別	男	100.0 (130)	36.9	14.6	9.2	1.5	4.6	9.2	4.6	9.2	8.5	3.8	6.9	16.2	14.6	4.6	2.3
	女	100.0 (251)	17.1	23.9	8.4	12.4	2.0	8.8	3.6	5.2	4.8	6.8	3.6	19.9	14.7	4.8	4.0
年齢階級別	65～69歳	100.0 (23)	30.4	8.7	8.7	8.7	－	4.3	4.3	4.3	4.3	－	4.3	4.3	21.7	13.0	－
	70～74歳	100.0 (54)	24.1	14.8	3.7	13.0	1.9	5.6	5.6	9.3	9.3	11.1	11.1	－	16.7	9.3	3.7
	75～79歳	100.0 (78)	32.1	20.5	6.4	7.7	2.6	10.3	3.8	6.4	6.4	7.7	3.8	5.1	20.5	5.1	1.3
	80～84歳	100.0 (107)	26.2	22.4	7.5	7.5	3.7	12.1	2.8	10.3	5.6	9.3	3.7	21.5	12.1	2.8	4.7
	85歳以上	100.0 (119)	15.1	24.4	13.4	8.4	3.4	7.6	4.2	2.5	5.0	－	3.4	36.1	10.9	2.5	4.2
世帯構成（世代別）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (72)	13.9	19.4	1.4	13.9	5.6	4.2	4.2	5.6	4.2	8.3	4.2	16.7	15.3	6.9	5.6
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (96)	31.3	16.7	9.4	7.3	3.1	16.7	5.2	12.5	10.4	8.3	8.3	7.3	13.5	4.2	1.0
	二世代世帯	100.0 (117)	24.8	24.8	11.1	6.0	2.6	6.8	3.4	1.7	5.1	4.3	2.6	24.8	14.5	3.4	4.3
	三世代世帯	100.0 (80)	22.5	23.8	11.3	7.5	－	8.8	3.8	7.5	5.0	3.8	3.8	26.3	15.0	3.8	3.8

5 通院等の状況

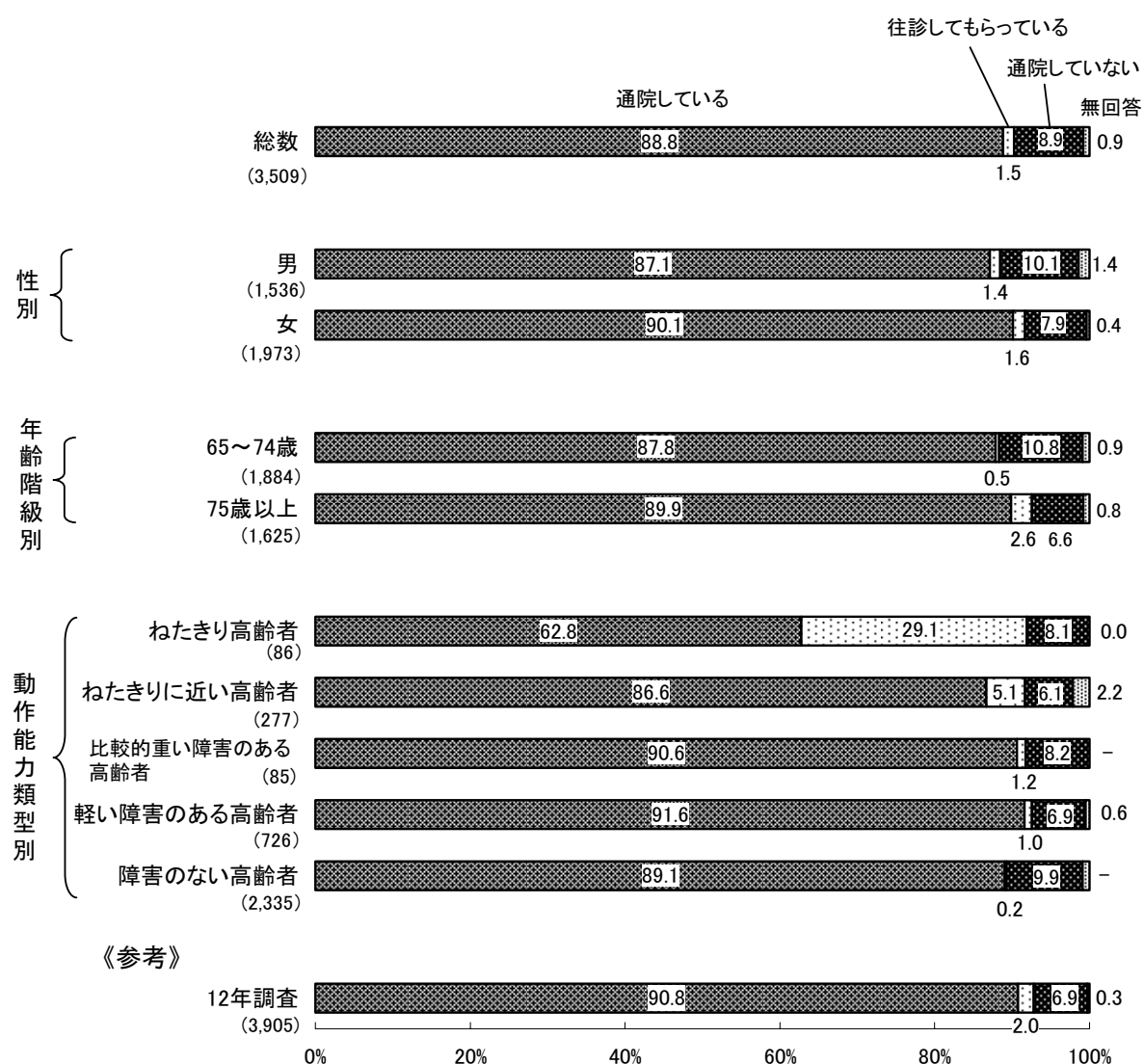
(1) 通院・往診の有無

通院している割合及び通院日数は、前回調査（12 年）に比べて減少。

何らかの傷病にかかっている高齢者に対して、通院しているかどうかを尋ねたところ、「通院している」が 88.8%、「往診してもらっている」が 1.5%、「通院していない」が 8.9%であった。（図 3-6）

12 年調査と比べると、「通院している」は 2.0 ポイント（12 年調査 90.8%→本調査 88.8%）、「往診してもらっている」も 0.5 ポイント（12 年調査 2.0%→本調査 1.5%）、それぞれ減少している。

図 3-6 通院・往診の有無－性、年齢階級、動作能力類型別、12 年調査との比較



(2) 通院日数

1ヶ月の通院日数は「1日以下」が4割半ばである。

通院している高齢者に、過去1ヶ月に通院した総日数を尋ねたところ、「1日以下」が45.5%と4割半ばにのぼり、次いで「2日」25.2%となっている。(表3-9)

12年調査と比べると、「1日以下」が16.1ポイント(12年調査29.4%→本調査45.5%)と大幅に増加した一方、「2日」は11.5ポイント(12年調査36.7%→本調査25.2%)減少している。また、平均日数は0.59ポイント低くなっており(12年調査3.64→本調査3.05)、通院日数は減少していることがわかる。

通院日数が平均に比べて多いのは、性別では「女性」、年齢階級別では「75～84歳」、動作能力類型別では「軽い障害のある高齢者」であることがわかる。

表3-9 過去1ヶ月の総通院日数－性、年齢階級、動作能力類型別、12年調査との比較

		総 数	1 日 以 下	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日 以 上	1 日 以 下 1 5 日	1 日 以 下 2 0 日	2 日 以 上	無 回 答	平 均
総数		100.0 (3,116)	45.5	25.2	6.8	7.3	2.5	5.9	2.8	1.9	1.2	1.0	3.05
性別	男	100.0 (1,338)	50.6	24.9	5.3	6.6	2.5	4.6	2.2	1.2	1.0	1.2	2.66
	女	100.0 (1,778)	41.7	25.4	7.9	7.8	2.5	6.9	3.1	2.4	1.3	0.9	3.34
年齢階級別	65～69歳	100.0 (732)	51.2	24.6	5.2	6.4	2.6	3.6	2.7	1.6	0.8	1.2	2.70
	70～74歳	100.0 (923)	45.3	23.9	6.4	7.6	2.7	7.6	3.3	1.3	1.1	0.9	3.08
	75～79歳	100.0 (707)	44.8	23.9	7.9	8.1	2.1	5.0	3.0	2.7	1.4	1.1	3.24
	80～84歳	100.0 (462)	42.0	25.8	7.8	7.4	3.2	7.1	1.9	1.9	1.7	1.1	3.27
	85歳以上	100.0 (292)	39.4	32.5	7.5	6.5	1.4	6.5	2.1	2.4	1.0	0.7	3.01
動作能力類型別	ねたきり高齢者	100.0 (54)	44.4	24.1	11.1	11.1	1.9	5.6	—	—	1.9	—	2.69
	ねたきりに近い高齢者	100.0 (240)	34.2	28.3	6.3	12.5	3.8	7.1	2.1	3.3	0.4	2.1	3.28
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (77)	36.4	29.9	13.0	7.8	—	6.5	—	3.9	2.6	—	3.40
	軽い障害のある高齢者	100.0 (665)	37.6	26.8	7.8	7.4	3.5	6.8	4.8	2.4	2.0	1.1	3.76
	障害のない高齢者	100.0 (2,080)	49.8	24.1	6.2	6.5	2.2	5.4	2.4	1.5	1.0	1.0	2.79
12年調査		100.0 (3,546)	29.4	36.7	7.2	9.4	2.5	7.3	3.1	2.5	1.6	0.3	3.64

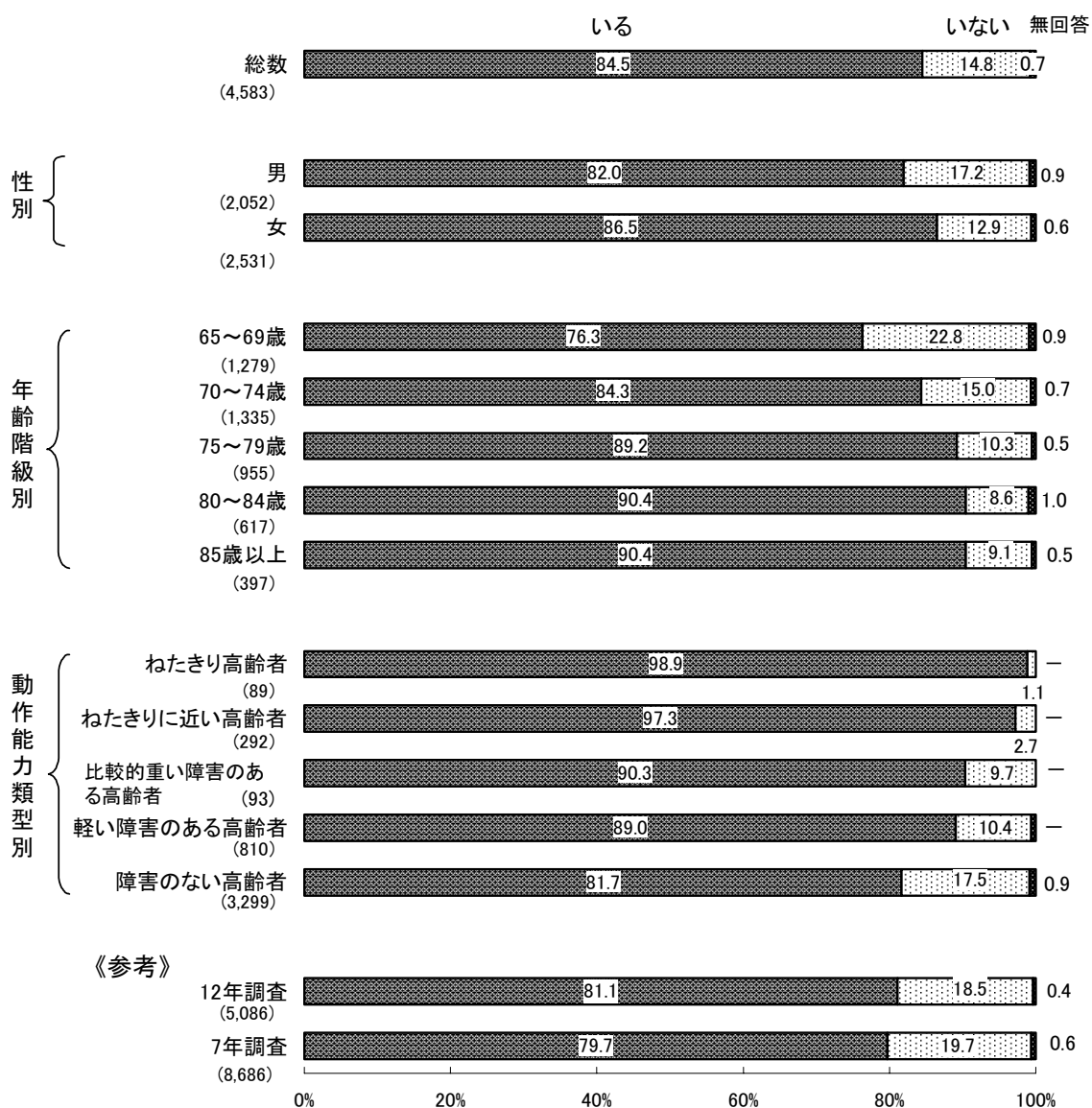
(3) かかりつけ医の有無

かかりつけ医がいる割合は、年齢階級が上がるとともに増加し、後期高齢者では約 9 割に達している。

かかりつけ医の有無を尋ねたところ、「いる」は 84.5% で、「いない」は 14.8% であった。7 年調査と比べると、「いる」は 4.8 ポイント（7 年調査 79.7% → 本調査 84.5%）増加しており、かかりつけ医機能の推進を図ってきた施策の効果が上がっていると思われる。（図 3-7）

年齢階級別でみると、年齢階級が上がるとともに「いる」割合は増加しており、後期高齢者（75 歳以上）では約 9 割に達している。

図 3-7 かかりつけ医の有無－性、年齢階級、動作能力類型別、
過去調査（平成 7 年～）との比較



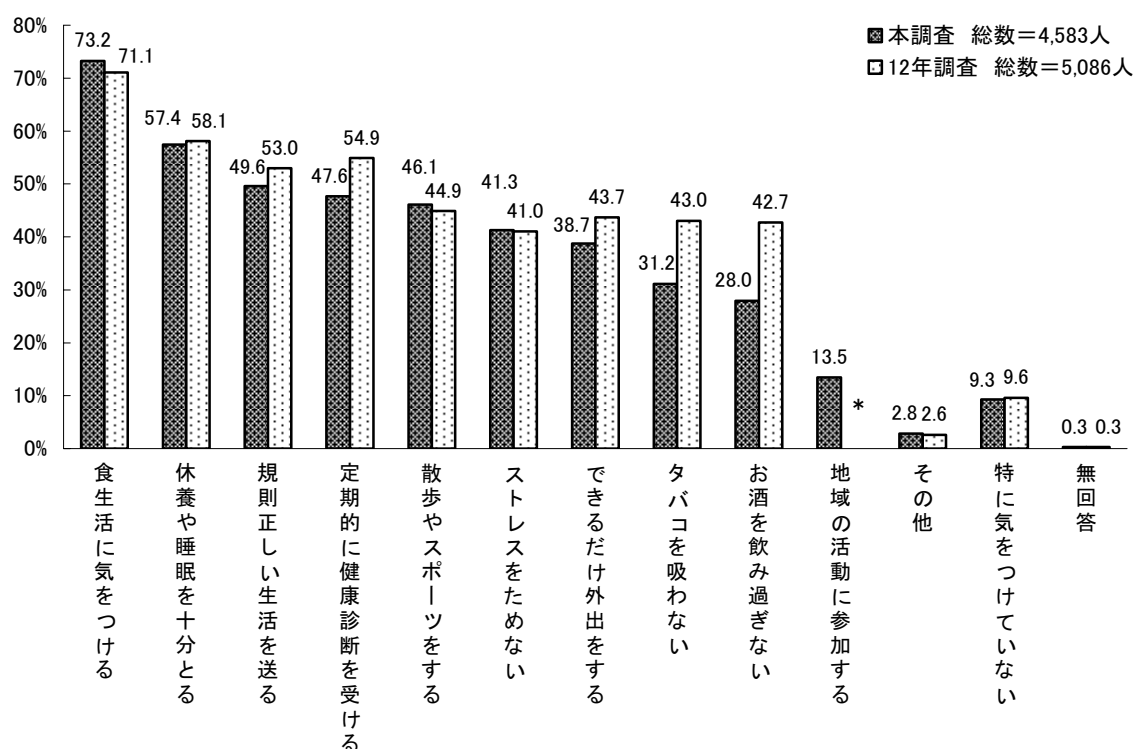
6 健康のために気をつけていること

健康のために気をつけていることは、「食生活に気をつける」が7割を超える。
「定期的に健康診断を受ける」は前回調査（12年）に比べて7.3ポイント減少。

健康の維持増進のために気をつけていることは何かと尋ねたところ、「食生活に気をつける」が73.2%で最も多く、次いで「休養や睡眠を十分とる」57.4%、「規則正しい生活を送る」49.6%となっている。（図3-8）

12年調査と比べると、「定期的に健康診断を受ける」が7.3ポイント（12年調査54.9%→本調査47.6%）、「できるだけ外出をする」が5.0ポイント（12年調査43.7%→本調査38.7%）減少している。

図3-8 健康のために気をつけていること（複数回答）－12年調査との比較



（注）＊は前回調査時に選択肢がなく、データが存在しないもの。

性別でみると、「食生活に気をつける」は女性が男性よりも 8.6 ポイント（男性 68.5%、女性 77.1%）高い。逆に、「散歩やスポーツをする」は男性が女性よりも 6.9 ポイント（男性 49.9%、女性 43.0%）高い。（表 3-10）

年齢階級別でみると、前期高齢者（65～74 歳）が後期高齢者（75 歳以上）よりも、「散歩やスポーツをする」が 9.1 ポイント（前期高齢者 50.0%、後期高齢者 40.9%）高くなっている。

世帯構成（世代別）でみると、「一世代世帯（夫婦のみ）」では全体的にどの項目でも割合が高く、また「特に気をつけていない」が 7.9%と他世代に比べて低いことから、健康に気をつけている夫婦が多いことがうかがえる。「単身世帯（ひとりぐらし）」は、他の世帯構成（世代別）に比べると「定期的に健康診断を受ける」は最も低い、「できるだけ外出をする」は最も多くなっている。

動作能力類型別でみると、健康状態のよい高齢者ほど健康に気を配っている傾向がある。

表 3-10 健康のために気をつけていること（複数回答）一性、年齢階級、
世帯構成（世代別）、動作能力類型、収入のある仕事の有無別

		総 数	つ食 け生 活に 気を つ	休養 とる 睡眠 を	活則 を送 るし い生	診定 断期 的に 健康	ツ散 歩を する スポー	めス トレ スを た	出で する だけ 外	なタ バコ を吸 わ	ぎお 酒を 飲み 過	参地 加域 の活 動に	そ 他	て特 いな 気をつ け	無 回 答
総数		100.0 (4,583)	73.2	57.4	49.6	47.6	46.1	41.3	38.7	31.2	28.0	13.5	2.8	9.3	0.3
性別	男	100.0 (2,052)	<u>68.5</u>	55.9	46.2	45.8	<u>49.9</u>	38.1	35.3	38.5	38.0	13.4	1.9	10.7	0.5
	女	100.0 (2,531)	<u>77.1</u>	58.6	52.4	49.1	<u>43.0</u>	43.9	41.4	25.2	19.8	13.6	3.6	8.1	0.2
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,614)	74.2	56.2	48.8	48.5	<u>50.0</u>	43.5	40.6	32.6	30.3	15.3	2.7	9.1	0.1
	75歳以上	100.0 (1,969)	71.9	59.0	50.7	46.4	<u>40.9</u>	38.4	36.3	29.2	24.9	11.0	3.0	9.5	0.6
世帯構成（世代別）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (863)	71.4	56.5	48.7	<u>43.8</u>	42.4	40.8	<u>43.9</u>	27.6	22.7	11.9	3.4	<u>10.3</u>	-
	一世代世帯（夫婦のみ）	100.0 (1,700)	<u>75.9</u>	<u>58.7</u>	<u>51.4</u>	<u>50.8</u>	<u>50.6</u>	<u>42.8</u>	<u>39.2</u>	<u>32.8</u>	<u>29.1</u>	<u>14.4</u>	2.4	<u>7.9</u>	0.2
	二世代	100.0 (1,294)	72.5	54.9	47.9	<u>45.4</u>	44.7	40.6	<u>36.1</u>	31.5	29.4	13.9	2.7	<u>10.4</u>	0.6
	三世代	100.0 (619)	69.1	59.0	50.6	<u>48.1</u>	42.5	40.5	<u>35.9</u>	30.7	28.9	13.1	3.6	<u>9.7</u>	0.5
動作能力類型別	ねたきり等の高齢者	100.0 (381)	64.0	53.5	37.0	36.0	12.6	25.2	11.5	21.5	15.5	1.3	6.8	13.9	2.6
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (93)	61.3	51.6	44.1	46.2	36.6	36.6	29.0	23.7	20.4	7.5	2.2	10.8	1.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (810)	71.4	56.7	47.0	45.1	42.7	37.4	34.1	27.8	24.4	8.9	2.0	8.8	0.1
	障害のない高齢者	100.0 (3,299)	<u>75.1</u>	<u>58.2</u>	<u>51.9</u>	<u>49.7</u>	<u>51.0</u>	<u>44.2</u>	<u>43.3</u>	<u>33.3</u>	<u>30.5</u>	<u>16.2</u>	2.6	8.9	0.1
有仕事無仕事の有無別	仕事をしている	100.0 (1,255)	72.7	55.7	46.2	49.0	42.5	43.5	36.5	35.4	30.5	16.1	3.4	10.2	0.2
	仕事をしていない	100.0 (3,322)	73.4	58.0	51.0	47.1	47.5	40.4	39.6	29.6	27.0	12.5	2.6	9.0	0.4

健康に関して寄せられた意見・要望の内訳は、次のとおりである。

医療費	35 件
医療制度の充実・改善	21 件
病院の充実・改善	18 件
検診の充実・改善	4 件
健康づくり	6 件

【寄せられた意見・要望の一部の紹介】

- 体が病弱なのでこれからの医療費の支払いに不安がある。収入に応じて医療費の免除や軽減をして安心して生活できるようにしてください。(女性・60代)
- 今はまだ健康だが、将来病気になった時の不安が強い。安心して医者にかかれるように、経済的な面で老人医療をもっと充実してほしい。(男性・60代)
- 来年から医療費も高くなり、介護費（保険）も高くなるというニュースを聞いて、老人にとっては心も暗く、不安な気持ちになるばかりです。自分が本当に介護の必要になった時、それが役に立つと思えば我慢しましょう。でも今それが全然見えてこないのです。今までコツコツ真面目に働き、少ない年金で生活をやりくりしているのも元氣なうちは我慢しましょう。でも自分の身体がどうにもならなくなった時、国(都なり)がちゃんと年金の範囲で医療が受けられ、病院にも入院出来(三ヶ月で出されるということも無く)、今まで苦労したけれど、生きていてよかったと心から思っこの世とさよならが出来る様になることを心から願い望んで居ります。(女性・70代)
- 要介護2～5の人以外は医療費をもう少し上げてよい。安いから病院に安易に老人が行くので、もっと自己管理を持たせたほうがよい。手を差しのべすぎる。(男性・60代)
- 病気になったら迷惑をかけるので、すぐ病院に入りたいが人数待ち、もっと国や都が対応をよくしてほしい。人の話を聞いても、ベッド待ちとか入院しても3ヶ月位すると別の所に病院を変わってくれと言われるそうで、そんな事は無理だと思う。具合が悪くて入院しているのに、本人はもちろん家族にとっても大変負担で、もっと考えて福祉とは何かと心を尽くしてもらいたい。(男性・70代)
- 健康診断を受けられる場所が何箇所にもなり(婦人科の乳癌検診のマンモグラフィなど)、一箇所ですべて受けられるようにしてほしい。子宮ガン、乳癌の検診が無料なのが2年に一度なのは毎年にしてほしい。(女性・70代)
- 自分は健康保持のため毎月15000円～16000円位支払ってスポーツジムに通っている。その為と思うが本当に健康に暮らしている。努力しているのだから65歳以上で施設利用者に補助して貰いたい。(男性・70代)

【参考】高齢者の健康診断の受診状況

下記の表 3-11 および 3-12 は、厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成 16 年）によるものである。65 歳以上の高齢者に健康診断の受診状況を尋ねたところ、東京都は全国平均よりも、「健診等を受けた」が 10.8 ポイント（東京都 67.6%、全国 56.8%）高く、7 割弱の高齢者が健康診断を受けている。健診の種類は、「区市町村で行う健診」（いわゆる基本健康診査〔注〕）が 53.3%と 5 割を超えている。（表 3-11）

表 3-11 で「健診等を受けていない」と答えた、東京都の高齢者にその理由を尋ねたところ、「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」が 42.9%で最も多い。（表 3-12）

また、東京都の基本健康診査の受診率をみると、平成 13 年度以降受診率は増加し続けている。（表 3-13）

表 3-11 健診等の受診の有無（複数回答）

	総数	健診等を受けた	区市町村で行う健診	職場における健診	学校における健診	人間ドック	その他	不詳	い健診等を受けていない	詳健診等受診の有無不
東京都	100.0 (1,254)	<u>67.6</u>	<u>53.3</u>	1.3	—	3.0	5.2	7.1	<u>26.4</u>	6.0
全国	100.0 (13,452)	<u>56.8</u>	42.0	1.5	0.1	2.6	5.3	6.6	<u>36.5</u>	6.7

表 3-12 健診等を受けなかった理由（複数回答）

	総 数	必要な時はいつでも 医療機関を受診 できるから	その時、医療機 関に入通院して いたから	毎年受ける必要 性を感じないか ら	めんどうだから	健康状態に自信 があり、必要性 を感じないから	時間がとれなかつ たから	結果が不安な くないから	費用がかかる から	知らなかった から	その他	不詳
東京都	100.0 (331)	42.9	15.7	11.2	10.3	7.6	7.6	4.8	4.2	2.4	9.7	11.5

表 3-13 東京都の基本健康診査受診率

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
基本健康診査受診率	56.6%	55.3%	58.4%	61.3%	62.1%

〔注 1〕 東京都「老人保健法等に基づく健康診査及びがん検診の対象人口率調査」による

〔注 2〕 40 歳以上の受診対象者における受診率である

〔注〕 基本健康診査：老人保健法に基づき区市町村が実施する、がん・心臓病・脳卒中など生活習慣病の予防及び介護予防を目的として行う健康診断。対象者は 40 歳以上（職場で検診の機会のある者等を除く）。平成 18 年度から 65 歳以上には、受診項目に介護予防を目的とした生活機能評価が追加された。

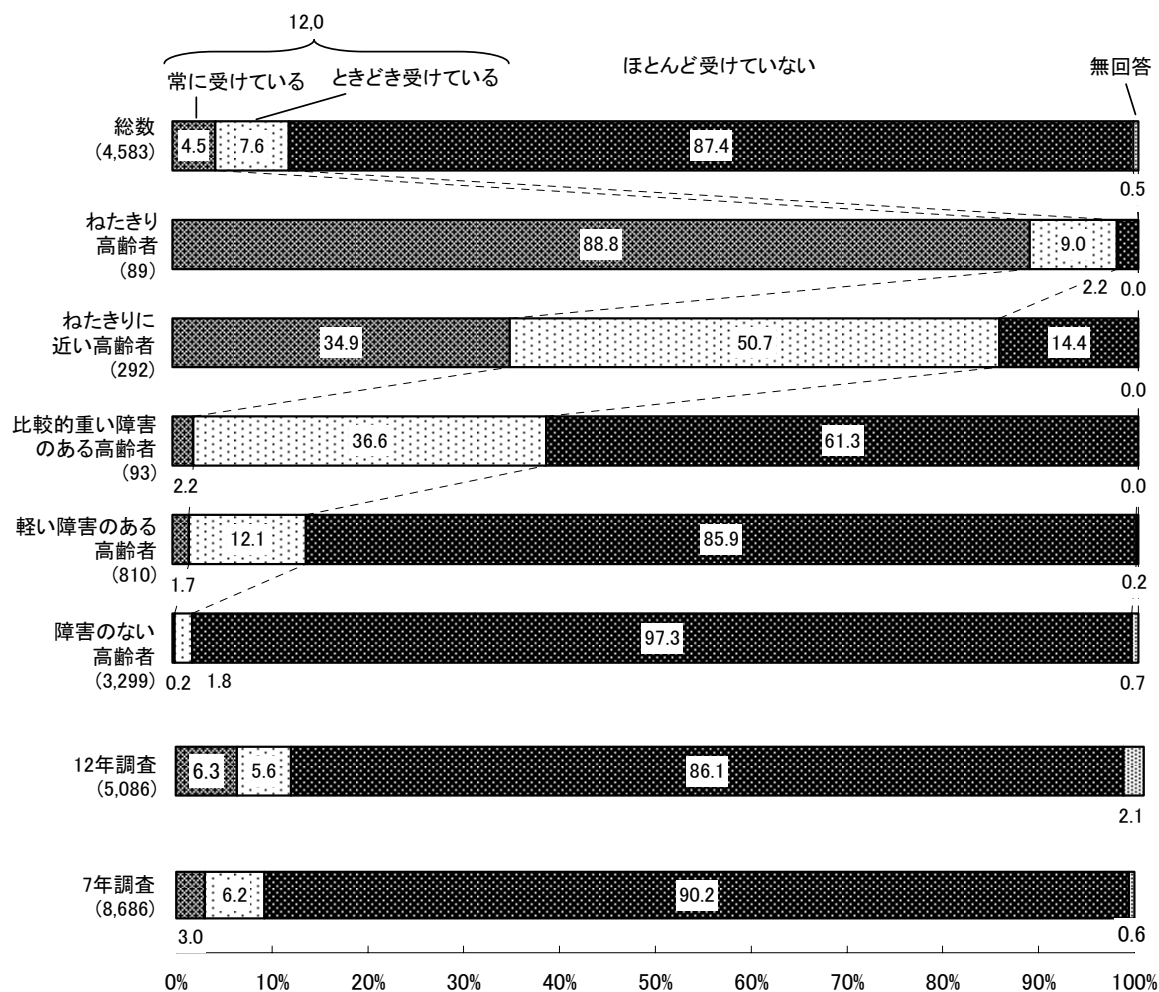
第4章 世話の状況

1 日常生活での世話の必要の有無

日常生活をする上で、世話が必要な高齢者は1割強。

日常生活をする上で、誰かの手助けや介護(以下まとめて「世話」という)を受けているか、と尋ねたところ、世話を「常に受けている」又は「ときどき受けている」高齢者は12.0%で、「ほとんど受けていない」高齢者は87.4%となっている。(図4-1)

図4-1 日常生活での世話の必要の有無—動作能力類型別(7年、12年調査との比較)



世話の状況を性別でみると、世話を「常に受けている」「ときどき受けている」を合計した割合は、男性が 8.4%、女性が 15.0%で女性の方が 6.6 ポイント高くなっている。(表 4-1)

性、年齢階級(本人)別でみると、前期高齢者(65 歳～74 歳)では、男性が 95.5%、女性が 94.3%と、世話を「ほとんど受けていない」が男女ともに 9 割を超える。後期高齢者(75 歳以上)では、男女ともにその割合は減少しているが、男性は 83.9%、女性では 73.2%と、男女で 10.7 ポイント差がある。

表 4-1 日常生活での世話の必要の有無一性、年齢階級別

	総 数	い 常 る に 受 け て	け と て き い ど き 受	け ほ て と い ん な ど い 受	無 回 答
総数	100.0 (4,583)	4.5	7.6	87.4	0.5
男 総数	100.0 (2,052)	3.7	4.7	91.0	0.6
		8.4			
65～74歳	100.0 (1,255)	1.9	2.1	95.5	0.6
75歳以上	100.0 (797)	6.5	8.8	83.9	0.8
女 総数	100.0 (2,531)	5.1	9.9	84.6	0.4
		15.0			
65～74歳	100.0 (1,359)	1.3	3.8	94.3	0.5
75歳以上	100.0 (1,172)	9.5	17.0	73.2	0.3

2 世話を受けている日数・時間

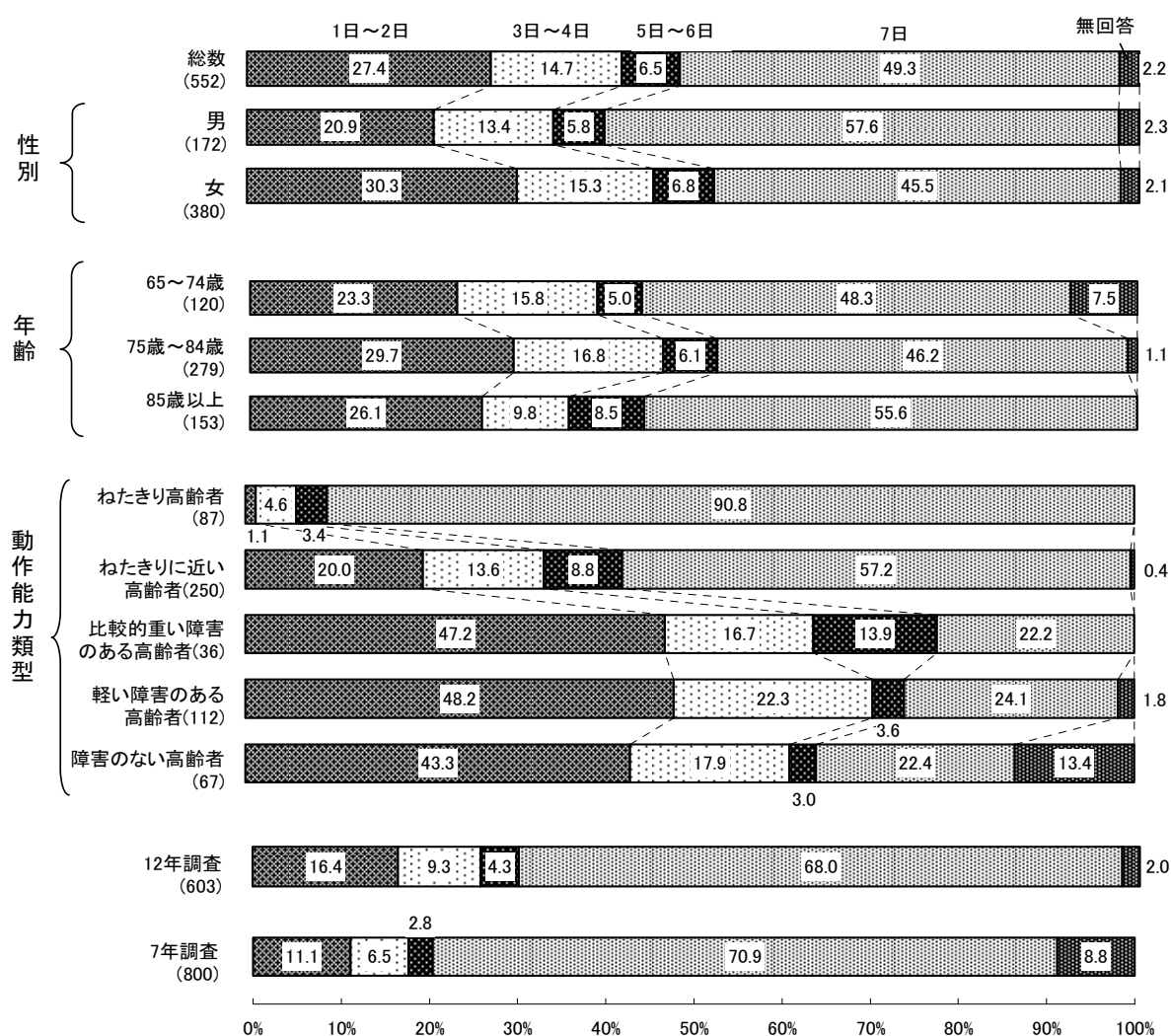
世話が必要な高齢者が1週間に世話を受ける日数は「7日」が5割近い。
1日あたりの世話の時間は「3時間未満」が54%で最も多い。

日常生活をする上で、世話を「常に受けている」「ときどき受けている」高齢者に対し、週に何日・1日あたり何時間世話を受けているか尋ねた。

週のうち世話を受けている日数をみると、「7日」と答えた高齢者は49.3%と、約半数にのぼる。しかし、「7年調査」(70.9%)「12年調査」(68.0%)と比較すると、「7日」と回答する人の割合は、連続して減少している。(図4-2)

性別でみると、「1日～2日」と答える人の割合は女性が30.3%、男性では20.9%と女性の方が男性より9.4ポイント高く、一方、「7日」と答える人の割合は、男性が57.6%、女性では45.5%と、男性の方が女性より12.1ポイント高い。年齢別でみると、85歳以上では「7日」世話を受けている人の割合が5割を超えている。

図4-2 週のうち世話を受けている日数－性、年齢階級、動作能力類型別
7年、12年調査との比較



また、1日あたり世話を受けている時間では、総数では「3時間未満」が54.3%となっており、「7年調査」(13.3%)「12年調査」(42.8%)と比較すると、連続して増加している。また、「24時間(終日)」は本調査では8.2%と1割を下回り、連続して減少している。(図4-3)

性別でみると、「3時間未満」は女性が58.7%、男性が44.8%と、女性の方が13.9ポイント高い。

図4-3 1日あたり世話を受けている時間－性、年齢階級、動作能力類型別

7年、12年調査との比較

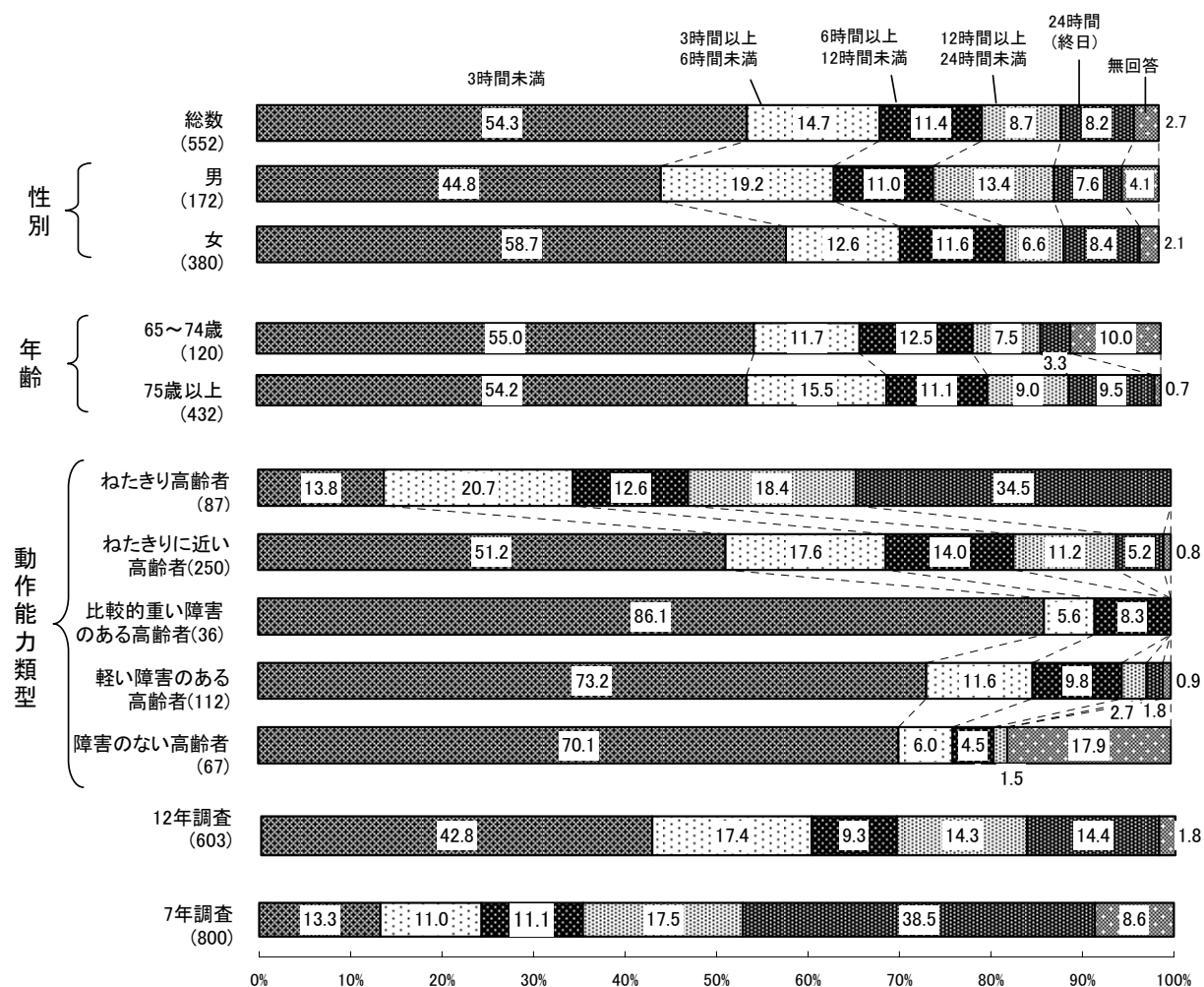


表4-1、図4-2・3より、男性は、女性に比べて、日常生活での世話を受けている割合が低い、男性で世話の必要のある人に注目すると、1週間に世話を受ける日数、特に「7日」の割合が女性より12.1ポイント高く、1日あたりに世話を受ける時間でも「12時間以上24時間未満」の割合が、男性は女性の約2倍となっている。

3 世話をしている人

(1) 世話を主にしている人

世話を主にしている人は、ホームヘルパーが前々回調査(7年)、前回調査(12年)から連続して増えている。

世話を主にしている人は、「世帯員」が56.2%で最も多く、次いで「ホームヘルパー」が28.1%となっている。「ホームヘルパー」は12年調査(12.6%)と比べると、15.5ポイント増加、7年調査からは23.8ポイント増加している。(図4-4)

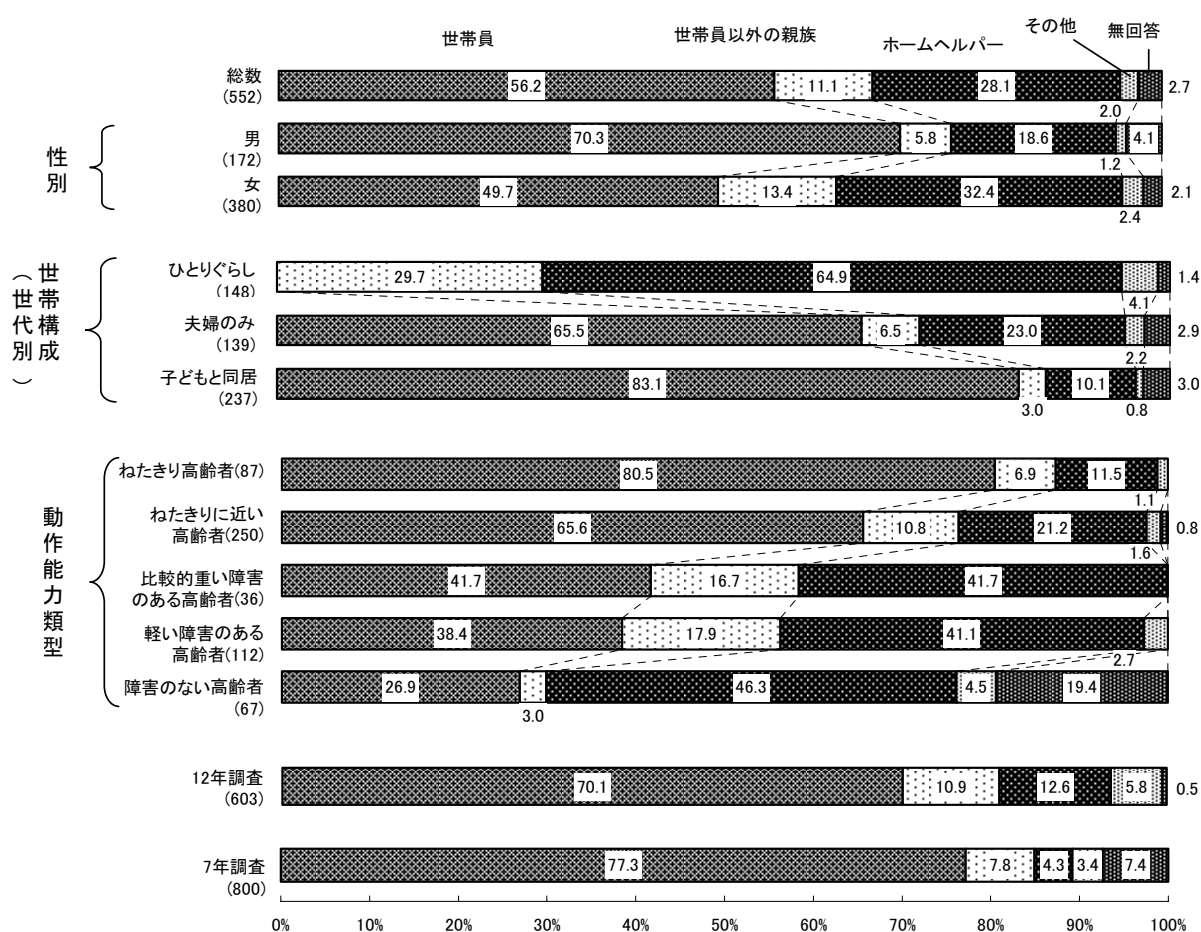
性別でみると、「世帯員」は、男性が70.3%、女性が49.7%で男性の方が20.6ポイント高く、「ホームヘルパー」は男性が18.6%、女性が32.4%で、男性の方が13.8ポイント低い。

世帯構成(世代別)別でみると、「単身世帯(ひとりぐらし)」では、「ホームヘルパー」が64.9%で最も多く、次いで「世帯員以外の親族」29.7%となっている。

動作能力類型別でみると、「ねたきり高齢者」の世話を主にしているのは「世帯員」が80.5%と8割を超えている。

図4-4 世話を主にしている人—性、世帯構成(世代別)、動作能力類型別

7年、12年調査との比較



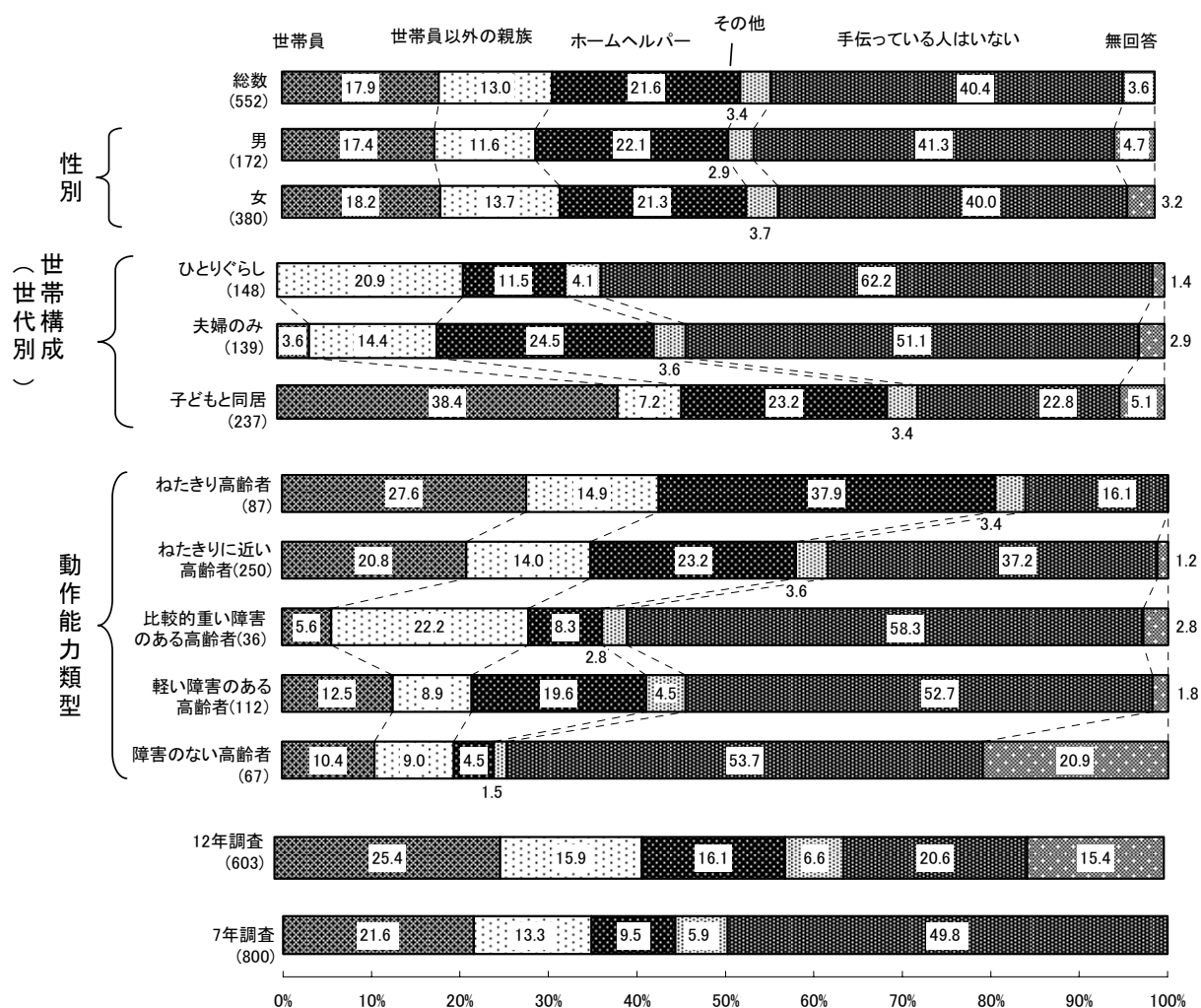
(注)その他には訪問看護師・家政婦・お手伝いさん・近所の人・友人等を含む。

(2) 世話を手伝っている人

世話を手伝っている人は、ホームヘルパー、世帯員の順で、前回調査(12年)と比較して順位が逆転。

世話を手伝っている人は、「ホームヘルパー」が21.6%と最も多く、次いで「世帯員」17.9%となっており、「12年調査」の「世帯員」(25.4%)と「ホームヘルパー」(16.1%)との順位が逆転している。「ホームヘルパー」の割合は、「7年調査」から連続して増加している。(図4-5)

図4-5 世話を手伝っている人—性、世帯構成(世代別)、動作能力類型別
7年、12年調査との比較



(3) 世話を主にしている人・手伝っている人

ホームヘルパーのみが世話をを行っている割合は2割強で最も高い。

(1)と(2)で尋ねた、日常の世話をしている人の「主にしている人」と「手伝っている人」の組み合わせをみている。

まず、総数をみると、ホームヘルパーが世話にかかわっている割合は、47.8%と5割近い。また、ホームヘルパーのみから世話を受けている(「ホームヘルパー・手伝っている人はいない」)割合が21.0%と最も高い組み合わせとなっている。(表4-2)

世帯構成(世代別)にみると、「単身世帯(ひとりぐらし)」では「ホームヘルパー・手伝っている人はいない」が52.0%で最も割合が高い。

表4-2 世話を主にしている人・手伝っている人

一性、年齢階級、世帯構成(世代別)、動作能力類型別

		総数	世帯員のみ	世帯員・世帯員 世帯員・世帯員 世帯員・世帯員	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外
		総数	世帯員のみ	世帯員・世帯員 世帯員・世帯員 世帯員・世帯員	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外	世帯員以外 世帯員以外 世帯員以外
総数		100.0 (552)	29.9	15.0	14.9	6.3	3.4	2.9	47.8	17.2	4.0	2.5	3.1	21.0	6.5	5.8	3.6
性別	男	100.0 (172)	39.5	16.3	23.3	3.5	1.7	1.7	40.1	20.3	1.7	0.6	2.3	15.1	7.6	4.7	4.7
	女	100.0 (380)	25.5	14.5	11.1	7.6	4.2	3.4	51.3	15.8	5.0	3.4	3.4	23.7	6.1	6.3	3.2
年齢階級	65～69歳	100.0 (43)	25.6	9.3	16.3	7.0	2.3	4.7	27.9	18.6	-	4.7	2.3	2.3	7.0	9.3	23.3
	70～74歳	100.0 (77)	41.6	13.0	28.6	6.5	3.9	2.6	44.2	14.3	2.6	3.9	2.6	20.8	2.6	1.3	2.6
	75～79歳	100.0 (131)	17.6	6.1	11.5	6.9	2.3	4.6	56.5	15.3	6.9	3.1	2.3	29.0	7.6	9.9	1.5
	80～84歳	100.0 (148)	32.4	19.6	12.8	3.4	2.0	1.4	48.6	19.6	1.4	2.0	3.4	22.3	6.1	4.1	4.1
	85歳以上	100.0 (153)	33.3	20.9	12.4	8.5	5.9	2.6	47.1	17.6	5.9	1.3	3.9	18.3	7.8	3.3	-
(世代別) 世帯構成	ひとりぐらし	100.0 (148)	-	-	-	18.9	11.5	7.4	71.6	-	10.1	-	9.5	52.0	-	8.1	1.4
	夫婦のみ	100.0 (139)	-	-	29.5	2.9	1.4	1.4	46.8	21.6	2.9	2.9	1.4	18.0	11.5	9.4	2.9
	子ども同居	100.0 (237)	49.8	34.2	15.6	1.3	-	1.3	32.5	22.4	0.8	3.8	0.4	5.1	6.8	9.7	5.1
動作能力 類型別	ねたきり高齢者	100.0 (87)	34.5	26.4	8.0	2.3	-	2.3	49.4	33.3	4.6	1.1	5.7	4.6	9.2	4.6	-
	ねたきりに近い高齢者	100.0 (250)	36.4	17.2	19.2	6.4	4.0	2.4	42.8	19.2	3.6	2.8	2.8	14.4	7.2	6.0	1.2
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (36)	27.8	2.8	25.0	11.1	11.1	-	44.4	2.8	5.6	2.8	-	33.3	11.1	2.8	2.8
	軽い障害のある高齢者	100.0 (112)	19.6	8.9	10.7	9.8	2.7	7.1	58.0	13.4	6.3	3.6	2.7	32.1	3.6	7.1	1.8
	障害のない高齢者	100.0 (67)	17.9	9.0	9.0	3.0	3.0	-	49.3	3.0	-	1.5	3.0	41.8	3.0	6.0	20.9

(注1) 表は「世話を主にしている人」と「手伝っている人」の組み合わせを示している。例えば、「世帯員・ホームヘルパー」なら、「世話を主にしている人」が「世帯員」で、「手伝っている人」が「ホームヘルパー」である。

(注2) 「その他」には、訪問看護師・家政婦・お手伝いさん、近所の人、友人等を含む。

(4) 世話をしている親族

世話を主にしている親族のうち、女性は 7 割弱で、息子の配偶者は前々回調査(7 年)から連続して減少している。

① 世話を主にしている親族

世話を主にしている親族の中では、「配偶者」(「夫」「妻」の合計)が 38.3%と最も多く、次いで、「娘(配偶者あり)」、「娘(配偶者なし)」の合計が 28.3%、「息子の配偶者」14.3%と続いている。「12 年調査」と比べると、「配偶者」「娘」は増加しているが、「息子の配偶者」は減少している。また、「息子の配偶者」は 7 年調査から連続して減少している。(表 4-3)

また、女性(「(配偶者)妻」「娘(配偶者あり)」「娘(配偶者なし)」「息子の配偶者」)の合計が 67.9%で、「12 年調査」の 70.1%と比べると、2.2 ポイント減少している。一方、男性(「(配偶者)夫」「息子(配偶者あり)」「息子(配偶者なし)」「娘の配偶者」の合計)は 24.8%で、「12 年調査」とほぼ同じであり、世話を主にしている親族のうち、およそ 4 人に 1 人が男性となっている。

性別でみると、男性の世話をしている親族は、「配偶者(妻)」が 71.8%と最も多い。一方、女性では、「娘(配偶者あり)」が 23.3%と最も多い。

表 4-3 世話を主にしている親族一性、年齢階級、動作能力類型別

7 年、12 年調査との比較

		総数	男					女					その他	無回答
			(配偶者)夫	(配偶者)妻	(息子)配偶者あり	(息子)配偶者なし	娘の配偶者	(配偶者)妻	(配偶者)夫	(息子)配偶者あり	(息子)配偶者なし	娘の配偶者		
総数		100.0 (371)	24.8	12.9	3.8	7.8	0.3	67.9	25.3	18.9	9.4	14.3	7.3	-
			38.3					28.3						
性別	男	100.0 (131)	6.1	-	2.3	3.8	-	92.4	71.8	10.7	4.6	5.3	1.5	-
	女	100.0 (240)	35.0	20.0	4.6	10.0	0.4	54.6	-	23.3	12.1	19.2	10.4	-
年齢階級別	65～69歳	100.0 (27)	25.9	22.2	-	-	3.7	66.7	44.4	14.8	7.4	-	7.4	-
	70～74歳	100.0 (53)	35.8	26.4	1.9	7.5	-	58.5	45.3	7.5	3.8	1.9	5.7	-
	75～79歳	100.0 (78)	32.1	16.7	3.8	11.5	-	60.3	25.6	16.7	7.7	10.3	7.7	-
	80～84歳	100.0 (99)	24.2	11.1	5.1	8.1	-	65.7	25.3	18.2	7.1	15.2	10.1	-
	85歳以上	100.0 (114)	14.9	3.5	4.4	7.0	-	79.8	11.4	27.2	15.8	25.4	5.3	-
動作能力類型別	ねたきり高齢者	100.0 (76)	25.0	13.2	2.6	9.2	-	71.1	26.3	19.7	10.5	14.5	3.9	-
	ねたきりに近い高齢者	100.0 (191)	25.7	11.0	5.2	8.9	0.5	68.6	27.7	17.3	11.0	12.6	5.8	-
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (21)	14.3	9.5	4.8	-	-	61.9	28.6	9.5	4.8	19.0	23.8	-
	軽い障害のある高齢者	100.0 (63)	25.4	15.9	1.6	7.9	-	61.9	19.0	23.8	4.8	14.3	12.7	-
	障害のない高齢者	100.0 (20)	25.0	25.0	-	-	-	75.0	15.0	25.0	10.0	25.0	-	-
12年調査		100.0 (489)	24.5	11.9	4.3	8.4	-	70.1	23.1	14.7	12.9	19.4	5.3	-
			35.0					27.6						
7年調査		100.0 (680)	19.8	11.5	3.8	4.4	0.1	74.9	29.7	14.3	10.3	20.6	5.0	0.3

② 世話を手伝っている親族

世話を手伝っている親族は「娘(配偶者あり)」、「娘(配偶者なし)」の合計が31.0%と最も多く、次いで「息子(配偶者あり)」「息子(配偶者なし)」の合計29.2%が続く。また、「息子の配偶者」(8.8%)は、「12年調査」(14.1%)と比較すると5.3ポイント減少しており、「7年調査」(17.6%)から連続して減少している(表4-4)

表4-4 世話を手伝っている親族－性、年齢階級、動作能力類型別

7年、12年調査との比較

		総数	男					女					その他	無回答
				(配偶者)夫	息子 (配偶者あり)	息子 (配偶者なし)	娘の配偶者		(配偶者)妻	娘 (配偶者あり)	娘 (配偶者なし)	息子の配偶者		
総数		100.0 (171)	38.6	2.3	21.1	8.2	7.0	42.1	2.3	21.1	9.9	8.8	19.3	-
					29.2					31.0				
性別	男	100.0 (50)	38.0	-	22.0	10.0	6.0	54.0	8.0	22.0	10.0	14.0	8.0	-
	女	100.0 (121)	38.8	3.3	20.7	7.4	7.4	37.2	-	20.7	9.9	6.6	24.0	-
年齢階級別	65～69歳	100.0 (12)	25.0	-	8.3	8.3	8.3	58.3	8.3	25.0	25.0	-	16.7	-
	70～74歳	100.0 (20)	35.0	5.0	5.0	20.0	5.0	40.0	-	25.0	10.0	5.0	25.0	-
	75～79歳	100.0 (29)	31.0	3.4	13.8	13.8	-	55.2	6.9	27.6	13.8	6.9	13.8	-
	80～84歳	100.0 (49)	42.9	4.1	20.4	8.2	10.2	36.7	-	12.2	6.1	18.4	20.4	-
	85歳以上	100.0 (61)	42.6	-	32.8	1.6	8.2	37.7	1.6	23.0	8.2	4.9	19.7	-
動作能力類型別	ねたきり高齢者	100.0 (37)	45.9	-	21.6	8.1	16.2	40.5	2.7	13.5	18.9	5.4	13.5	-
	ねたきりに近い高齢者	100.0 (87)	32.2	2.3	19.5	5.7	4.6	47.1	2.3	24.1	10.3	10.3	20.7	-
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (10)	30.0	10.0	20.0	-	-	30.0	-	10.0	-	20.0	40.0	-
	軽い障害のある高齢者	100.0 (24)	45.8	4.2	25.0	16.7	-	25.0	4.2	20.8	-	4.2	25.0	-
	障害のない高齢者	100.0 (13)	53.8	-	23.1	15.4	15.4	46.2	-	30.8	7.7	7.7	-	-
12年調査		100.0 (249)	42.2	6.4	19.3	10.0	6.4	46.6	4.0	16.5	12.0	14.1	10.8	0.4
7年調査		100.0 (279)	36.6	3.6	21.9	6.1	5.0	51.3	4.7	17.2	11.8	17.6	11.5	0.7

(注) 性別の「女性」の「その他」24.0%には、「孫又はその配偶者」(15.7%)も含まれる。

4 世話を主にしている世帯員の状況

(1) 世話を主にしている世帯員の年齢

世話を主にしている世帯員の6割近くが「60歳以上」。

高齢者の世話を主にしている世帯員の平均年齢は、62.1歳である。年齢階級別でみると、「70～79歳」が29.0%と最も多く、「60歳以上」の年齢階級での世帯員の割合は59.4%となっている。また、12年調査と比べ、70歳以上（39.3%）が増加している。（図4-6）

世話を主にしている親族別でみると、配偶者で主に世話をしている人の平均年齢は夫が72.5歳、妻が72.7歳と他の親族より高くなっている。動作能力類型別でみると、ねたきり高齢者の12.9%が「80歳以上」の世帯員から主に世話を受けている。（表4-5）

図4-6 世話を主にしている世帯員の年齢

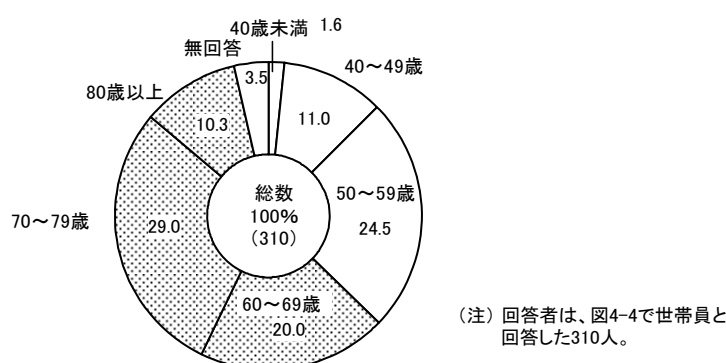


表4-5 世話を主にしている世帯員の年齢－世話を主にしている親族、動作能力類型別
7年、12年調査との比較

		総 数	未 4 満 0 歳	4 4 9 0 歳	5 5 9 0 歳	6 6 9 0 歳	7 7 9 0 歳	以 上 8 0 歳	無 回 答	平 均
総数		100.0 (310)	1.6	11.0	24.5	20.0	29.0	10.3	3.5	62.1
世話を主にしている親族別	配偶者	100.0 (142)	—	—	2.1	19.0	55.6	21.1	2.1	72.7
	夫	100.0 (48)	—	—	—	10.4	52.1	31.3	6.3	72.5
	妻	100.0 (94)	—	—	3.2	23.4	57.4	16.0	—	72.7
	息子（配偶者あり）	100.0 (10)	—	20.0	40.0	30.0	—	—	10.0	50.5
	息子（配偶者なし）	100.0 (27)	3.7	25.9	59.3	11.1	—	—	—	52.2
	娘（配偶者あり）	100.0 (40)	—	15.0	50.0	30.0	5.0	—	—	58.0
	娘（配偶者なし）	100.0 (31)	3.2	22.6	32.3	19.4	3.2	—	19.4	43.4
	息子の配偶者	100.0 (42)	—	28.6	52.4	16.7	—	—	2.4	52.0
動作能力類型別	ねたきり高齢者	100.0 (70)	1.4	10.0	20.0	28.6	20.0	12.9	7.1	59.8
	ねたきりに近い高齢者	100.0 (164)	1.2	10.4	28.7	17.1	33.5	6.7	2.4	62.6
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (15)	6.7	—	26.7	26.7	20.0	13.3	6.7	60.5
	軽い障害のある高齢者	100.0 (43)	2.3	9.3	18.6	18.6	30.2	18.6	2.3	64.9
	障害のない高齢者	100.0 (18)	—	33.3	16.7	11.1	27.8	11.1	—	60.8
12年調査		100.0 (489)	6.3	14.5	31.7	22.3	19.4	5.7	—	59.5
7年調査		100.0 (680)	4.9	17.8	22.9	25.6	22.6	5.9	0.3	...

(2) 世話を主にしている世帯員の健康意識

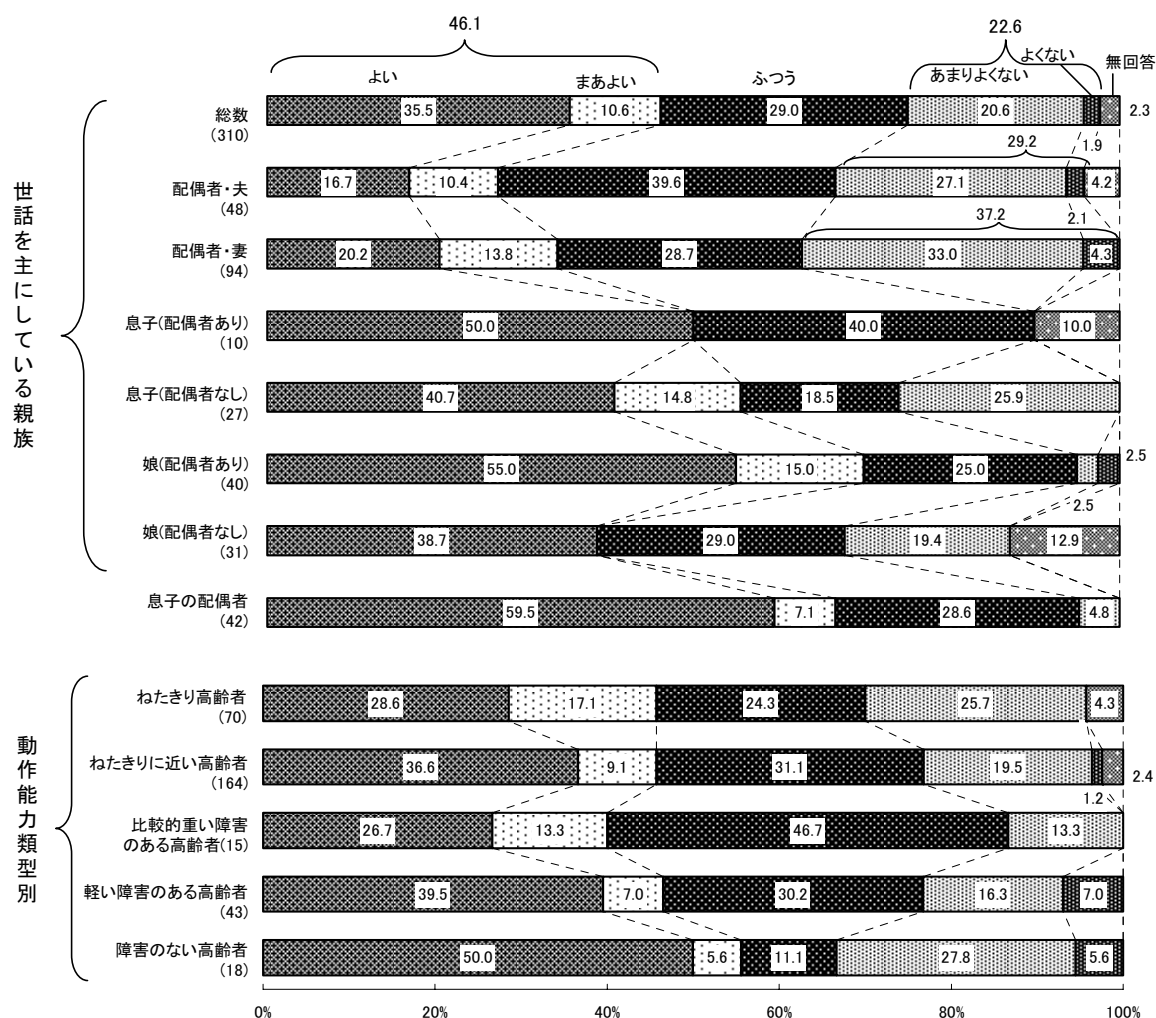
世話を主にしている親族で、健康意識が「あまりよくない」「よくない」は23%

高齢者の世話を主にしている世帯員の健康意識を尋ねたところ、「よい」「まあよい」の合計が46.1%、「ふつう」が29.0%、「あまりよくない」「よくない」の合計が22.6%となっている。特に、夫では、「あまりよくない」「よくない」の合計が29.2%、妻では37.2%と、他の続柄よりも割合が高い。(図4-7)

動作能力類型別でみると、健康意識が「あまりよくない」と答えている人で、「ねたきり高齢者」の世話をしている世帯員が25.7%いる。

図4-7 世話を主にしている親族（世帯員）の健康意識

―世話を主にしている親族、動作能力類型別



(3) 世話を主にしている世帯員の就業状況

世話を主にしている世帯員の6割強は収入のある仕事に就いていない。

高齢者の世話を主にしている世帯員の就業状況をみると、「家事専業（専業主婦）」が37.4%で最も多く、次いで「仕事に就いていない」23.5%となった。両者を合計した「収入のある仕事をしていない」が61.0%である。一方で「収入のある仕事をしている」も36.8%であり、仕事をしながら世話をしている世帯員も多い。（表4-6）

性別でみると、世話をしている男性（「夫」、「息子（配偶者あり）」、「息子（配偶者なし）」、「娘の配偶者」の合計）の44.2%、女性（「妻」、「娘（配偶者あり）」、「息子（配偶者なし）」、「息子の配偶者」の合計）の34.8%が、仕事をしながら世話をしている。

動作能力類型別でみると、ねたきり等（「ねたきり高齢者」と「ねたきりに近い高齢者」の合計）の高齢者を世話をしている世帯員では、「家事専業（専業主婦）」（38.5%）の割合が高い。

表4-6 世話を主にしている親族（世帯員）の就業状況

―世話を主にしている親族、動作能力類型別

	総数	て収入のある仕事をし	業自営業（家族従業員含む）	常勤の被雇用者	用者常勤でない被雇用者	臨時・パート	内職	ンシタルバーの会員材セ	その他の就業	い収入のないある仕事に就	主家事専業（専業主婦）		無回答
											ない仕事に就いてい	ない仕事に就いてい	
総数	100.0 (310)	36.8	14.8	12.9	-	8.1	0.3	0.3	0.3	61.0	37.4	23.5	2.3
世話を主にしている親族別	男	100.0 (86)	44.2	26.7	16.3	-	1.2	-	-	51.2	0.0	51.2	3.5
	配偶者・夫	100.0 (48)	31.3	20.8	8.3	-	2.1	-	-	64.6	-	64.6	4.2
	息子（配偶者あり）	100.0 (10)	60.0	40.0	20.0	-	-	-	-	30.0	-	30.0	10.0
	息子（配偶者なし）	100.0 (27)	63.0	33.3	29.6	-	-	-	-	37.0	-	37.0	-
	女	100.0 (207)	34.8	11.1	10.6	-	11.6	0.5	0.5	63.3	52.7	10.6	1.9
	配偶者・妻	100.0 (94)	21.3	9.6	7.4	-	3.2	-	1.1	78.7	66.0	12.8	-
	娘（配偶者あり）	100.0 (40)	42.5	15.0	5.0	-	20.0	-	-	57.5	52.5	5.0	-
	娘（配偶者なし）	100.0 (31)	45.2	3.2	35.5	-	3.2	3.2	-	41.9	19.4	22.6	12.9
	息子の配偶者	100.0 (42)	50.0	16.7	4.8	-	28.6	-	-	50.0	47.6	2.4	-
	ねたきり等の高齢者	100.0 (234)	37.6	15.8	13.2	-	7.3	0.4	0.4	59.4	38.5	20.9	3.0
動作能力類型別	ねたきり高齢者	100.0 (70)	44.3	22.9	11.4	-	7.1	1.4	1.4	51.4	32.9	18.6	4.3
	ねたきりに近い高齢者	100.0 (164)	34.8	12.8	14.0	-	7.3	-	-	62.8	40.9	22.0	2.4
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (15)	40.0	6.7	13.3	-	20.0	-	-	60.0	33.3	26.7	-
	軽い障害のある高齢者	100.0 (43)	32.6	14.0	11.6	-	7.0	-	-	67.4	34.9	32.6	-
	障害のない高齢者	100.0 (18)	33.3	11.1	11.1	-	11.1	-	-	66.7	33.3	33.3	-